

ヨハネ福音書序言

記者 あるいは、第四福音書は、使徒ヨハネの筆ではないと言われる。けれども、古伝は明らかにヨハネの記述であることを主張し、公教会においても、また固くこの説をとっている。ヨハネはゼベデオとサロメとの子で、ヤコボの弟である。漁業を生計とし、かつて父とともに舟にいたのを、たまたま兄とともにイエズスに召され、ただちにいつきをおいてこれに従つたが、十二使徒中、最も年が若く、ついに最愛の弟子となつた。これによつて、ペトロおよびヤコボとともに、特別にイエズスの主な奇蹟に立ち会い、山上における変容も、ゲッセマニにおける苦痛をも見ることを得、最終晩さんのも、最愛の弟子としてイエズスのかたわらにおり、イエズスが十字架にのぼり給うた時も、聖母マリアを託されたのである。兄と同じく熱誠な氣質であったので、イエズスはあだなをつけて、いかずちの子と呼び給うた。イエズスが昇天し給うたのちは、ペトロとともにいたことは、しばしば使徒行録に見え、エルザレムの會議にも列席したと思われる。エルザレムを離れて、異邦人に布教した時代は明らかではないが、古伝はみな、彼が小アジア、ことにエフェゾに長く住んでいたことを証明している。歴史家が伝えるところによれば、ドミニクス皇帝の時、煮油の中に入れられたが、助かつて無事に出たのを、パトモス島に流され、トラヤン皇帝の時、およそ紀元一〇〇年ごろついにエフェゾで死んだ。

目的 本書の目的は、第二十章の終わりに記したように、読者をして、イエズスがキリストであることを信じさせるためである。古伝によれば、あたかも第一世紀の終わりにあたり、イエズスの

神性についてさまざまな説が起つたので、信徒の願いによつてこれを明らかに示したのであると言われる。他の三福音書はキリスト教が初めて宣伝されたころに書いたものであつて、イエズス・キリストが人の間にあつて語り、かつ行ない給うたこと、すなわちもっぱら外部的記述をなしたが、本書はこれに反し、主としてその内生すなわちキリストのみ心にあつたこと、神たる父との関係を述べて事実よりは言葉を載せることが多く、他の福音書の記事がおおむね倫理に関するのと違つて、その説くところはもっぱら教理に關し、事実も他の福音書よりは高尚で、いつそう理想的であるとされる。また他の福音書に載せてないことを述べて、その足りないところを補うようなところが多い。

区分 本書は全くイエズスが神の子であることをもとすために書かれたものである。ゆえに最初からイエズスがみ言葉であること、すなわち神の第二位であることを主張し(一章一～十八節)、次はこれを二編に分け、第一編はイエズスが自らキリストであることを世に示し給うたことを述べ(一章十九～十二章五十節)、第二編はイエズスのご布教の結果としてその光榮が現われたことを、晩さん後の談話と受難と復活とをもつて示し(十三章～二十章)、終わりに湖のほとりの出現を述べて文を結ぶ(二十一章)、なお詳細は目次によつて見ること。

言語、場所および年代 本書の用語は純粹なギリシア語で、最も平易坦率であるが、語法にヘブレオ語固有のところが多いのを見れば、もとヘブレオ語であったのをギリシア語に訳したものであろう。古代の著述家の言うところによれば、本書はエフェゾにおいてしたためられたもので年代は第一世紀の終わり、すなわちヨハネの晩年であろう。

ヨハネのイエズス・キリスト聖福音書

序文 託身のみ言葉たくしん

託身以前のみ言葉 1 初めにみ言葉¹あり、み言葉、神とともにあり、み言葉は神にてありたり。2 これ初めに神とともにありたるものにして、3 万物これによりてなれり、なりしもの一つも、これによらずしてなりたるはあらず。³ 4 これがうちに生命ありて、生命また人間の光⁴たりしが、5 光、闇に照るといえども、闇これを悟らざりき。⁵

託身後のみ言葉 6 神より遣わされて、名をヨハネと言える人ありしが、7 その來りしは証明のためにして、光を証明し、すべての人をして、おのれによりて信せしめんためなりき。8 彼は光にあらずして、光を証明すべき者たりしなり。9 「み言葉こそ、」この世に出で来るすべての人を照らす誠の光なりけれ。10 かつて世にあり、世またこれによりてなりたれども世これを知らず、11 おのが方に來りしも、その族やからこれを受けざりき。12 されどこれを受けし人々には、おのおの神の子となるべき權能を授けたり。これすなわち、その名を信する者、13 血ちすじによらず、肉の意によらず、人の意によらず、神によりて生まれたる者なり。

ご託身の事実および効果 14 かくてみ言葉は肉となりて、われらのうちに宿すくり給えり、われらは、その光榮を見奉りしが、そは父より来れるひとり子のとき光榮なりき、すなわち恩寵と真理

15 とに満ち給いしなり。15 ヨハネは彼につきて証明し、呼ばわりていわく、われよりのちに来るべき
 人は、われに先立ちて存したるがゆえに、われより先にせられたり、と言ひて、わがかつて、さ
 し示しにはこれなり、と。16 かくてわれらは、みなその充满せるところより授かりて、恩寵に恩
 龕を加えられたり。¹¹ 17 けだし律法^{*}モイゼ^{*}をもつて与えられたるも、恩寵と眞理とはイエズス・
 キリストをもつてなりたるなり。¹² 18 たれもかつて神を見奉りし人はあらず、父の御懷^{おんぶ}にまします
 ひとり子の自ら説き表わし給いしなり。

第一編 イエズス、言行をもつてその

神性および派遣を証し給う

第一項 最初の証明および行為

第一款 洗者ヨハネ、イエズスを証明す

(1) 衆議所の使に対する 19 そもそもヨハネの証明は次のとし。ユダヤ人がエルザレムより司祭^{*}
 およびレビイ人らを彼に遣わして、汝はたれなるぞ、と問わしめし時、20 彼は宣言^{せんげん}せしが、否む
 ことなくして、われキリストにあらずと宣言せり。21 彼ら、しかば何ぞや、汝はエリヤなる
 か、と問い合わせしに、彼、しかば何ぞや、汝はエリヤなるか、と答へたり。
 22 かくて彼ら、汝はたれなるぞ、われらを遣わしし人々に答うることを得しめよ、自らおのれを

23 何と称するぞ、と言ひしかば、²³彼言ひけるは、われは予言者イザヤの言いしごとく「汝ら主の道を平らにせよ」^{13 14}と野に呼ばわる者の声なり、と。²⁴この遣わされし人々はファリサイの徒輩なりしが、²⁵またヨハネに聞いて、しかば汝はキリストにもあらず、エリアにもあらず、「かの」^{*}予言者にもあらざるに、何ぞ洗するや、と言ひしに、²⁶ヨハネ答えて言ひけるは、われは水にて洗すれども、汝らのうちに汝らの知らざる一人の人立てり、²⁷これぞ、わがのちに来るべき者、われより先にせられたる者にして、われは、そのはきものひもを解くにだも堪えず、^{15 16}と。²⁸このことどもは、ヨハネの洗しつつありしヨルダン〔川〕のかなたベタニアにてなりき。

(2) おのが弟子に対す ²⁹明くる日、ヨハネ、イエズスのおのれに來り給うを見て言ひけるは、見よ、神の小羊を、見よ、世の罪を除き給う者を。³⁰わがかつて、われよりのちに來る者あり、われより先に存したるがゆえに、われより先にせられたり、³¹と書いてさし示ししは、これなり。³¹われ、もとこれを知らざりしかど、水にて洗しつつ来れるは、彼をイスラエルにおいて現われしめんためなり、と。³²ヨハネまた¹⁸証明して言ひけるは、われは〔聖〕靈が鳩のごとく天よりくだりて彼の上に留まり給うを見たり。³³われ、もと彼を知らざりしかど、われを遣わして水にて洗せしめ給えるもの、われにのたまいけらく、汝〔聖〕靈のくだりて人の上に留まり給うを見ば、これぞ聖靈にて洗する者なる、と。³⁴かくて、われこれを目撃して、彼が神の御子たることを証明したるなり、と。

イエズスの最初の弟子 (1)アンデレアとヨハネ 35 翌日ヨハネまた弟子二人とともに立ちいて、
 36 イエズスの歩み給うを見、見よ、神の小羊を、と言いしかば、37 一人の弟子、かく語るを聞き
 てイエズスに従い行きしに、38 イエズス振り返りて、その従えるを見、これにのたまひけるは、
 39 汝ら何を求むるぞ、と。彼ら、ラビリ訳せば師よりいすこに住み給うぞ、と言いしかば、39 イエ
 ズス、来て見よ、とのたまえり、彼ら行きてイエズスの住み給う所を見、その日はそこに留まれ
 り。時は四時19ごろなりき。

(2)シモン・ペトロ 40 シモン・ペトロの兄弟アンデレアは、ヨハネより聞きてイエズスに従い
 し二人のその一人なりしが、41 まずその兄弟シモンに出で会いてこれに言ひけるは、われらメッ
 シアリ訳せばキリストリに会えり、と。42 かくてこれをイエズスのもとに連れ來りしに、イエズ
 スこれを見つめてのたまひけるは、汝はヨナの子シモンなり、ケファアリ訳せばペトロリと名づけ
 られん、と。

(3)フィリップ 43 次の日ガリレアに行かんとしてフィリップに会い給いしかば、イエズス、わ
 れに従え、とのたまひしが、44 フィリップはアンデレアとペトロとの故郷なるベッサイダの人な
 りき。

(4)ナタナエル 45 フィリップ、ナタナエルに会いて言ひけるは、われらモイゼの律法にも、予
 言者たちにも書きしるされし人に会えり、すなわちナザレトのヨゼフの子イエズスなり、と。46
 ナタナエル、何らの良き者がナザレトより出づるを得んや、と言いしかば、フィリップ、来て見よ、

47 と言えり。47 イエズス、ナタナエルのおのれに来るを見給い、これをさして、これげに野心なき
 48 イスラエル人なり、とのたまえ巴、48 ナタナエル、いかにしてわれを知り給うぞ、と言いしに、
 イエズス答えてのたまいけるは、フイリッポが汝を呼ぶ前に、われ汝がいちじくの木の下におる
 49 を見たり、と。49 ナタナエル答えて、ラビ、汝は神の御子なり、イスラエルの王なり、と言いし
 50 かば、50 イエズス答えてのたまいけるは、汝が信じたるは、われ汝がいちじくの木の下におるを
 51 見たりと告げしによりてなり。汝、これよりも更に大いなることを見ん、と。51 また、これにの
 たまいけるは、誠に誠に汝らに告ぐ、汝らは天開けて神の使たちが人の子の上にのぼりくだりす
 るを見るべし、と。

- ①創世記1・1 ②み言葉とは神の御ひとり子を言う。ヨハネ1・1、2、9、14、黙示録19・13にあるとおり。言
 葉と称され給うのは御父より永遠に生まれ給うことが、ほとんど言葉が知恵から生ずるのと同じように、また言葉は知
 恵の発表であり、御子は御父の有体的言葉であるからである。③ラテン訳では何ものも。④本書8・12、ヨハネ1
 ・5 ⑤本書3・19 ⑥マテオ3・1、マルコ1・2 ⑦なにがしの名を信ずるとはヘブレオ語固有の言い方で、そ
 の者を信じるの意。⑧人となつての意。⑨ラテン訳では住み。⑩ヨハネ一書1・2 ⑪チモテオ前書6・17 ⑫
 チモテオ前書1・16、ヨハネ一書4・12 ⑬イザヤ40・3 ⑭ラテン訳では直くせよ。⑮マテオ3・11 ⑯マルコ
 1・7、ルカ3・16 ⑰川の左岸にあってエルザレム付近のベタニヤとは異なる。⑱ルカ3・21 ⑲原文には十時。
 ⑳ケファもペトロも巖（いわお）の意。マテオ16・18を見よ。



カナにおける婚宴

1 三日目にガリレアのカナに婚宴ありて、イエズスの母そこにおれ

- 3-2 1 るに、2 イエズスも弟子たちとともに招かれ給えり。3 酒つきければ、母、イエズスに向かい、彼
 4 ら酒なし、と言いしに、4 イエズス、婦人よ、そはわれと汝とに何かある、わが時いまだ来らず、
 5 とのたまいしかば、5 母は給仕らに向かいて、彼が汝らに言うところは何にもあれ、これをなせ、

6 と言いおけり。6さてユデア人の清めの習慣に従いて、そこに二三斗²入りの石があつて六つ備えあり
 7 しが、7イエズス、給仕らに、水をかめに満てよ、とのたまいければ、彼ら口まで満たししに。
 8 8イエズスまた、今、くみ取りて饗宴司^{あるまいつかさ}に持ち行け、とのたまいしかば、すなわち持ち行けり。
 9 9饗宴司^{あるまいつかさ}、酒に化したる水をなむるや、給仕らは、そのよりて来るところを知れども、おのれは
 10 これを知らざれば、花婿^{はなむすび}を呼び、10これに向かいて、たれも、まず良き酒を出だして、人々の酔
 11 えるに至りて劣れるものを出だすに、汝は良き酒を今まで取りおきけるよ、と言えり。11これイ
 エズスの奇跡の初めにして、これをガリレアのカナに行ない、おのが光榮を表わし給いしかば、
 12 弟子たち、これを信仰せり。12そののちイエズス、母、兄弟、および弟子たちとともにカファル
 ナウムにくだり給いしが、みな、そこに留まること久しうからざりき。

第二項 各地における布教

第一款 イエズス、過ぎ越しの祭にのぼり給う

13 神殿内の商人追い出ださる 13ユデア人の過ぎ越しの祭、近づきければ、イエズス、エルザレ
 14 ムにのぼり、14〔神〕殿の内にて牛、羊、鳩を売る人々および坐せる両替屋等を見給いしかば、
 15 繩をもつてむちめきたるものを作り、彼らをことごとく〔神〕殿より追い出だし、羊、牛をも
 16 追い出だし、両替屋の金をまき散らして、その机をくつがえし、16鳩を売る人々に向かいて、こ

17 のものどもを取りのけよ、わが父の家を賣^{あきな}の家となすな、とのたまえり。17弟子たちは、書き
 しるして「汝の家に対する熱心は、われを食いつくせり」³とあるを思い出だせり。18かくてユデ
 ア人答えてイエズスに言ひけるは、汝、いかなる印を表わして、これらのこととなすぞ、と。¹⁹
 イエズス答えて、汝ら、この「神」殿をこぼて、われ三日のうちにこれを起ことさん、とのたま
 しかば、²⁰ユデア人言ひけるは、この「神」殿は、作るに四十六年を要せしに、汝、三日のうち
 にこれを起こそべきか、と。²¹ただしイエズスは、おのが体の「神」殿をさしてのたまひしなり。
 22されば死者のうちより復活し給えるのち、弟子たち、こののたまいたりしことを思い出だして、
 聖書とイエズスののたまいし御言葉とを信ぜり。

多くの人、信ず²³イエズス、過ぎ越し^{*}の祭日にあたりてエルザレムに居給う間、多くの人そ
 のなし給える奇跡を見て、み名を信じたり。⁴24されどイエズスは、これらに身を打ち任せ給わざ
 りき、そは自ら、すべての人を知り、²⁵また人の心にあることを知り給えば、人につきて他人の
 証明を要し給わざるゆえなり。

①金どう酒。②原文には二、三メトレタとあって、国によつては十八リットル、二十二リットル、五十四リットルに
 も当たる容量である。③詩編68・10 ④これを信じたの意。

第二章

ニコデモとの談話

1 ここにファリザイ人のうちにニコデモと呼ばれて、ユデア人の頭^{かしら}
 2 だちたる者ありしが、¹夜、イエズスのもとに至りて言ひけるは、ラビ、われらは汝が神より來
 りたる教師なることを知れり、そは何人も神これとともにいますにあらざれば、汝のなせるごと
 3 き奇跡を行ない得ざればなり。3イエズス答えてのたまひけるは、誠に誠に汝に告ぐ、人、新た

4 に生まるるにあらずば神の国を見ることあたわず。4 ニコデモ言ひけるは、人すでに老いたるに、
 5 いかでか生まるることを得べき、あに再び母の胎内に入りて新たに生まるるを得んや。5 イエズ
 ス答え給いけるは、誠に誠に汝に告ぐ、人は水と靈²とより新たに生まるるにあらずば神の国に入
 7-6 ることあたわず。6 肉より生まれたる者は肉なり、靈より生まれたる者は靈なり。7 汝ら再び生
 8 まれざるべからずと、わが汝に告げたるを怪しむことなれ。8 風はおのがままなる所に吹く、
 汝その声を聞くといえども、いざこより來りて、いざこに行くかを知らず、すべて靈より生まれ
 9 たる者もまたしかり、と。9 ニコデモ答えて、これらのこと、いかにしてかなり得べき、と言ひ
 10 しかば、10 イエズス答えてのたまひけるは、汝はイスラエルにおいて師たる者なるに、これらの
 11 ことを知らざるか。11 誠に誠に汝に告ぐ、われらは知れるところを語り、見たるところを証す、
 12 されど汝らは、その証言を受けざるなり。12 わが地上のことを語りてすら汝らは信せざるものを、
 13 天上のことを語るとも、いかでかこれを信せんや。13 天よりくだりたる者、すなわち天にある人
 の子^{*}のほかは、たれも天に昇りし者なし。14 またモイゼ^{*}が荒野^{あれ}にて蛇を上げしごとく、人の子^{*}も
 15 必ず上げらるべし、15 これすべて、これを信仰する人の滅びずして永遠の生命を得んためなり。
 16 けだし神のこの世を愛し給えることは御ひとり子を賜うほどにして、これすべて、これを信仰す
 17 る人の滅びずして永遠の生命を得んためなり。17 すなわち神が御子をこの世に遣わし給いしは、世
 を審判せしめんためにあらず、世が彼によりて救われんためなり。18 彼を信仰する人は審判せら
 れず、信せざる人は、すでに審判せられたり、そは神の御ひとり子のみ名を信せざればなり。19 審判
 とはこれなり、すなわち光すでに世に來りたるに、人はおのれの行ないの悪しきために、光より

20 も、むしろ闇⁸を愛したるなり。20 すべて悪をなす人は光を憎み、おのが行ないを責められじとて
光に来らず。21 されど真理を行なう人は、おのが行ないの現われんために光に来る、そは神のう
ちに行なわねたればなり、と。

第二款 イエズス、ユデアに留まり給う

22 イエズスおよびヨハネ、人を洗す 22 そののちイエズス、弟子たちとユデア地方に至り、ともに
留まりて洗しい給いしが、23 ヨハネもサリムに近きエンノンに水多かりければ、そこにて洗しつ
つあり、人々來りて洗せられたり。24 すなわちヨハネいまだ監獄に入れられざりしなり。

25 ヨハネの最終の証明 25 しかるにヨハネの弟子たちとユデア人ととの間に、洗礼につきて議論起
こりしかば、26 彼らヨハネのもとに來りて言ひけるは、ラビ¹⁰、ヨルダン¹¹「川」のかなたに汝とともに
にありし時、汝より証明せられたるかの人は、今自ら洗して人みなこれにおもむくなり、と。27 ヨハ
ネ答えて言ひけるは、人は天より賜わりたるにあらずば、何ものをも自ら受くるあたわず、28 汝
ら自ら、われにつきて証するごとく、われかつて、われはキリストにあらず、ただその先に置わ
されたるのみ、と告げたりき。29 花嫁^{はなよ}持てる人こそ花婿^{はなよ}なれ。さて花婿の友として、立ちてこ
れに聞く人は、花婿の声のために喜びに喜ぶ。されば、わがこの喜びは円満なり。30 彼は榮^{かみ}べ
く、われは衰^{くた}べし。31 上より来れる人は衆人に上^{かみ}たり、地よりの人は地に屬して地上のことを
語る、天より来れる人は衆人に上^{かみ}たるなり。32 彼は、その自ら見かつ聞きしころを証すといえ

33 ども、一人もその証言しょうげんを受けず、33 その証言を受けたる人は、神の眞実にてましますことを証印しゆいんせる者なり。34 すなわち神の遣わし給いし者は神の御言葉を語る、神は「聖」靈を賜うに制限な
ければなり。35 父は御子を愛して万物をその手に賜えり。36 御子を信仰する人は永遠の生命を有
す。されど御子を信せざる人は生命を見ざるべく、神の怒りかえつて彼が上に留まる、と。

① 師よ、の意。② ラテン訳では聖靈。③ 洗礼を言う。④ たとえのこと。⑤ 民数紀略 21・8、9、知書 16・5 ⑥ 十
字架上のことである。本書 12・34 ⑦ 本書 1・4、5、9 ⑧ 世間の迷いの意。⑨ マテオ 14・3、マルコ 6・17、ル
カ 3・19 ⑩ 師よ、の意。⑪ イエズス。

第三款 イエズス、サマリアをよぎり給う

第四章

イエズス、ユーデアを去り給う 1 時にイエズス、おのれが弟子を作り人を洗すること、

2 ヨハネよりも多き由よしの、ファリザイ人の耳に入りしを知り給いしかば、2 Ⅱ ただし洗せるはイエ
ズスにあらずして、その弟子たちなりき॥ 3 ユーデアを去りて再びガリレアに行き給えり。4 し
かるにサマリアを通らざるを得ざりければ、5 ヤコブ*が、その子ヨゼフに与えし土地に近きサマ
リアのシカルと言える町に至り給いしが、6 ここにヤコブの井戸ありけるに、イエズス旅に疲れ
て、そのまま井戸の上に坐し給えり、時は十二時1ごろなりき。

7 サマリアの婦人との談話 7 ここにサマリアの一人の女、水くみに來りしかば、イエズスこれ
に向かいて、われに飲ませよ、とのたまえり。8 これ弟子たちは食物じょくぶつを買わんとて町に行きたれ
ばなり。9 その時、サマリアの女言ひけるは、汝はユーデア人なるに、何ぞサマリアの女なるわれ

10 に飲み物を求むるや、と。これユデア人はサマリア人と交わらざるゆえなり。10 イエズス答えて
 のたまいけるは、汝もし神の賜ものを知り、またわれに飲ませよと汝に言える者のたれなるかを
 知らば必ず²彼に求め、彼は生ける水を汝に与えしならん。11 女言いけるは、君よ、汝はくむもの
 12 を持たず、井戸は深し、さるを、いすこよりして生ける水を持てるぞ。12 われらが父ヤコブ、こ
 の井戸をわれらに与え、自らも、その子どもも、その家畜も、これより飲みしが、汝は彼よりも
 13 まされる者なるか。13 イエズス答えてのたまいけるは、すべてこの水を飲む者は、またかわくべ
 14 し、しかれども、わが与えんとする水を飲む者は永遠にかわかず、14 わがこれに与うる水は、か
 えつて彼において永遠の生命に湧き出する水の源となるべし。15 女言いけるは、君よ、わがかわ
 16 くことなく、ここにくみにも来らざるよう、その水をわれに与えよ。16 イエズスのたまいけるは、
 17 行きて夫を呼び来れ。17 女答えて、われは夫なし、と言いしかば、イエズスのたまいけるは、よ
 くこそ夫なしと言いたれ、18 夫は五人まで持ちたりしに、今あるは汝の夫にあらず、汝が、しか
 言いしは誠なり。19 女言いけるは、君よ、われ見るに汝は予言者なり。20 われらが先祖は、この
 21 20-19 18 山にて礼拝したるに汝らは言う、礼拝すべき所はエルザレムなり、と。21 イエズスのたまいける
 は、女よ、われを信ぜよ、汝らが、この山となく、エルザレムとなく、父を礼拝せん時来るなり。
 22 汝らは知らざるもの禮拝し、われらは知りたるもの禮拝す、救いはユデア人のうちより出づ
 ればなり。23さて誠の礼拝者が、靈と実^{じつ}とをもつて父を礼拝すべき時来る、今までにその時なり。
 24 そは父もかくおのれを礼拝する人を求め給えばなり。24 神は靈にてましませば、これを礼拝する
 25 人は、靈と実^{じつ}とをもつて礼拝せざるべからず、と。25 女、イエズスに言いけるは、われはメッシ

ア、いわゆるキリストの来るを知る。されば彼来らば万事をわれらに告ぐべし。²⁶ イエズスこれにのたまひけるは、汝と語りつつあるわれ、すなわちそれなり、と。²⁷ やがて弟子たち來り、イエズスの女と語り給えるを怪しみしかど、たれも何をか求め、何ゆえ彼と語り給うと言う者なかりき。²⁸ かくて女、その水がめを残して町に行き、そこなる人々に向かい、²⁹ 来て見よ、わがなししことを残らずわれに言いたる人を、こはキリストならんか、と言いしかば、³⁰ 彼ら町より出でてイエズスのもとに来れり。

³¹ 靈の食³² および刈り入れ ³³ そのひまに弟子たち、イエズスにいて、ラビ、食し給え、と言ひしに、³² のたまひけるは、われには汝らの知らざる食物の食すべきあり、と。³³ 弟子たち、たれか食物を持ち來りしそ、と言ひ合えるを、³⁴ イエズスのたまひけるは、わが食物は、われを遣わし給いしもののみ旨を行ないて、その業³⁵ を全うすること、これなり。³⁵ 汝らは、なお四カ月の間あり、そののち刈り入れの時來る、と言うにあらずや。われ汝らに告ぐ、目をあげて田畠³⁶ を見よ、もはや刈り取るべく白みたり。³⁶ 刈る人は報いを受けて永遠の生命に至るべき実を收むれば、まぐ人も刈る人ともに喜ぶべし。³⁷ 謂に、一人はまき一人は刈ると言えること、ここにおいてか誠なり。³⁸ われ汝らを遣わして労作³⁹ せざりしものを刈らしめたり。すなわち他の人、前に労作して、その労作したところを汝らが受け継ぎたるなり、と。

³⁹ サマリアにおける布教 ³⁹さて、かの町にては、かの人がなししことを残らずわれに告げたり、と証したる女の言葉によりて、多くのサマリア人、イエズスを信せしかば、⁴⁰ 人々御もとに來りて、ここに留まり給わんことをこえり、されば、ここに留まり給うこと一日にして、⁴¹ なお

⁴² 多くの人、御言葉によりてこれを信仰せり。 ⁴² かくて、かの女に向かい、われらはもはや汝の語るところによりて信する者にあらず、すなわち自ら彼に聞きて、その誠に救世主たることを知れり、と言ひいたり。

第四款 イエズス、ガリレアに至り給う

ガリレアにおけるイエズスの歓迎 ⁴³ しかるに二日ののち、イエズスそこを出でてガリレアに行き給えり。 ⁴⁴ 予言者その本国に尊ばれず、と自ら証し給いしが、⁴⁵ ガリレアに至り給いしに、ガリレア人は、かつて祭日にエルザレムにて行ない給いしいつさいのことを見たりければ、イエズスを歓迎せり、そは彼らも祭日に行きてありしなり。

王官の子いやさる ⁴⁶ かくてイエズス再び、先に水を酒に化し給いしガリレアのカナに至り給いしに、一人の王官あり、その子、カファルナウムにて病みいければ、⁴⁷ イエズス、ユデアよりガリレアに来給うと聞きて御もとに至り、くだりておのが子をいやし給わんことを、せつに願いいたり、彼まさに死なんとすればなり。⁴⁸ イエズスこれにのたまひけるは、汝らは印と奇跡とを見ざれば信せず、と。⁴⁹ 官人かんじん、イエズスに向かいて、主よ、わが子の死なざる前にくだり来給え、⁵⁰ といしに、イエズス、行け、汝の子生く、とのたまひしかば、この人、イエズスのおのれにのたまひし御言葉を信じて行きたり。⁵¹さて、くだる道にしもべら行き会いて、その子の生きたる由を告げければ、⁵² その回復せし時刻を問いしに、彼ら、昨日の午後一時に熱去れり、と言う

にぞ、⁵³ 父は、あたかもイエズスが汝の子生くとおのれにのたまいしと同時なりしを知り、その身も一家も、こぞりて信仰せり。⁵⁴ この第二の奇跡は、イエズス、ユデアよりガリレアに至り給いし時に行ない給いしなり。

^① 原文には六時。^② ラテン訳では、あるいは。^③ 先祖の意。^④ 師よ、の意。^⑤ 原文には七時。

第三項 イエズスに対する恨み現わる

第一款 イエズス、祭日にのぼり給う

三章 池のほとりの中風者いやさる 1 そののちユデア人の祭日ありしかば、イエズス、エルザレムにのぼり給えり。2 さてエルザレムには、^{ひつじもん}羊門のほとりにヘブレオ語にてベテスマ¹と言え
る池あり、これに付属せる五つの廊^{うら}ありて、3 そのうちに、おびただしき病人、めしい、足な
え、中風者どもふして、水の動くを待ちおれり。4 そは時として主の使²、池にくだり、水、ために
動くことあり、水動きてのち、まつ先に池にくだりたる者は、いかなる病にかかるも、いやれ
ばなり。5 ここに三十八年来、病を憂うる人ありしが、6 イエズス、彼がふせるを見、かつその
憂うことの久しきを知り給いしかば、汝、いえんことを欲するか、とのたまいしに、7 病者答
えけるは、君よ、水の騒ぐ時に、われを池に入る人なし、されば、わが行くうちに他の人われ
に先立ちてくだるなり、と。8 イエズスこれに向かい、起きよ、汝の寝台^{ねだい}を取りて歩め、とのた

まえは、9 その人、たちまちいえ、寝台を取りて歩みたり。その日は安息日なりければ、10 ユデア人
 11 そのいえたる人に向かい、安息日なり、汝、寝台を携うべからず、と言えるを、11 彼は、われを
 12 いやしし人、汝の寝台を取りて歩めと言いたるなり、と答えければ、12 彼ら、汝に寝台を取りて
 13 歩めと言いし人はたれぞ、と問いたれど、13 いえたる人は、そのたれなるを知らざりき、そはイ
 エズスすでに、この場の雜踏^{さうとう}を避け給いたればなり。

14 イエズス、安息日を破るとて、とがめられ給う 14 のちイエズス「神」殿にて彼に会い、見よ、
 汝はいやされたり、また罪を犯すことなかれ、おそらくは、なお大いなる禍い汝に起こらん、と
 のたまいけるに、15 かの人行きて、おのれをいやししはイエズスなり、と、ユデア人に告げしかば、
 16 ユデア人は、安息日にかかることをなし給うとてイエズスを責めいたり。17 イエズス、わが父
 18 は今に至るまで働き給えば、われも働くなり、と答え給いければ、18 ユデア人いよいよイエズス
 を殺さんと計れり、そは、ただに安息日を冒し給うのみならず、神をわが父と称して、おのれを
 神と等しき者とし給えばなり。

19 イエズスと父との一致 さればイエズス答えて彼らにのたまいけるは、19 誠に誠に汝らに告ぐ、
 父のなし給うことを見るほかに、子は自ら何ごともなすあたわず。けだし、すべて父のなし給
 うことは子もまた同じくこれをなす。20 すなわち父は子を愛して自らなし給うところを、ことご
 とくこれに示し給う、また更に汝らが驚くばかり、ひとしお大いなる業^{わざ}をこれに示し給わんとす。
 21 けだし父が死人を起こして生かし給うことく、子もまた、わが思う者を生かすなり。22 また父
 23 は、たれをも審判し給わず、審判をことごとく子に賜いたり。23 これみな父を尊ぶごとく、子

24 を尊ばんためなり。子を尊ばざる人は、これを遣わし給いし父を尊ばざる者なり。24 誠に誠に汝
らに告ぐ、わが言葉を聞きて、われを遣わし給いし者を信ずる人は永遠の生命を有し、かつ審判
に至らずして死より生に移りたる者なり。25 誠に誠に汝らに告ぐ、時は来る、今こそ、それよ、
すなわち死人は神の子の声を聞くべく、これを聞きたる人は生くべし。26 けだし父は生命をおの
れの内に有し給うごとく、子にもまた生命をおのれの内に有することを得させ給えり。27 かつ人
の子たるにより、審判する権能をこれに賜いしなり。28 汝らこれを怪しむなれ、墓の内なる人、
ことごとく神の子の声を聞く時来らんとす。29 かくて善をなしし人は出でて生命に至らんがため
に復活し、惡を行ないし人は審判を受けんがために復活せん。30 われ自らは何ごともなすあた
わすして、聞くがままに審判す、しかも、わが審判は正当なり、そはわれ、おのが意を求めず、
われを遣わし給いし者のおぼしめしを求むればなり。

32-31 **自証の価値** 31 われ、もし自らおのれを証明せば、わが証明は誠ならずとも、32 わがために証
明する者ほかにあり、しかしてわれ、そのわがためになす証明の誠なるを知れり。

35 34-33 **ヨハネの証明** 33 汝ら、かつて人をヨハネに遣わししに、彼は真理を証明せり。34 われは人よ
りの証明を受くる者にあらざれども、これを語るは、汝らの救われんためなり。35 彼は燃え、か
つ輝ける灯ともしびなりしが、汝らは、しばらくその明りによりて楽しまんとせり。

36 **業の証明** 36 されども、われはヨハネのにまさりて大いなる証明を有す。すなわち父が全うせ
よとて、われに授け給いし業きぎょう、わがなしつつある業きぎょう、そのものが、父のわれを遣わし給いしことを
証するなり。

父の証明 37 われを遣わし給いし父もまた自らわがために証し給いしなり³、されど汝らは、かつて御声を聞きしことなく、御姿を見しことなく、38 また御言葉を心に留むことなし、これ、その遣わし給いし者を信せざればなり。

聖書の証明 39 汝らは聖書に永遠の生命を有すと思ひてこれを探る、彼らもまた、われを証明するものなり、40 されど汝らは生命を得んため、わがもとに來ることをがえんぜず。

不信仰の原因および結果 41 われは名譽を人より受くる者にあらず、42 しかも汝らを知れり、すなわち汝らは心に神を愛することあらざるなり。43 われは、わが父の名によりて来れるに、汝らは、われを受けず、もし、ほかにおのれの名によりて来る人あらば、これをば受くるならん。44 互いに名譽を受けて、しかも唯一の神より出づる名譽を求めざる汝らなれば、あに信することを得んや。45 われ汝らを父のみ前に訴えんとす、と思うことなけれ、汝らを訴うる者あり、汝らが頼めるモイゼ^{*}これなり。46 汝ら、もしモイゼを信するならば、必ずわれをも信するならん、そは彼、わがことを書きしるしたればなり。47 されど、もし彼の書を信せずば、いかでか、わが言葉を信せんや、「とのたまえり」。

① ラテン訳ではベッサイダと名づける羊の池あり。② 天使の意。③ マテオ3・17 ④ ラテン訳では、あるいは。

⑤ 創世記3・15、22・18、49・10、申命記18・15



3-2 1
いしに、2 病める人々になし給える奇跡を見て群衆おびただしく従いければ、3 山に引き退きて
4 弟子たちとともにそこに坐しい給えり。4 時はユデア人の過ぎ越しの祭日近きころなりき。

5 イエズス、パンをふやし給う（マテオ14・15、ルカ9・12）⁶⁻³⁵₄₄、マルコ17）²¹ 5 イエズス、目をあげて無数の群衆の
わがもとに来るを見給いしかば、ファイリッポにのたまひけるは、この人々の食すべきパンを、わ
れらいすこより買うべきか、と。6 かくのたまえるは彼を試み給わんためなりき、けだし自らは、
7 そのなさんとするところを知り給えるなり。7 ファイリッポ答えけるは、二百デナリオのパンは、
8 おのおのいささかずつを受くるも、この人々には足らざるなり、と。8 弟子の一人なるシモン・
9 ペトロの兄弟アンデレア、イエズスに向かいて、9 ここに一人のわらべあり、大麦のパン五つと
10 魚二つとを持てり、されど、かくおびただしき人の中に、そが何になるぞ、と言ひしかば、10 イ
エズス、人々を坐せしめよ、とのたまい、との所に草多かりければ男子さら坐したるに、その数、五
千人ばかりなりき。11 イエズスやがてパンを取り、謝し給いてのち坐せる人々に分かち、魚をも
12 彼らの欲するに任せて分かち給えり。12 人々満腹せし時、イエズス弟子たちに向かい、残れるく
ずをすたらざるようすに捨え、とのたまいしかば、13 食せし人々の余したる五つの大麦のパンのくず
14 を拾いて十二のかごに満たせり。14 かくて人々、イエズスのなし給いし奇跡を見て、げに、これ
15 ぞこの世に来るべき予言者なる、と言ひしが、15 イエズス、彼らのまさにおのれを捕えて王とな
さんとするを悟り給いしかば、また一人、山にのがれ給えり。

17-16 水上を歩み給う（マルコ14・22、15・52）³³

16 日暮に及び、弟子たち湖うみにくだりて、17 舟に乗り、カフ

アルナウムに向かいて湖^{うみ}を渡るに、すでに暗けれども、イエズスいまだ彼らの所に來り給わず、

18 湖^{うみ}は大風吹きて荒れたり。19 かくておよそ四五十町²もこぎ出だしたる時、人々イエズスの水の上を歩みて舟に近づき給うを見て恐れしが、20 イエズス、われなるぞ、恐ることなけれ、とのたまいしかば、21 彼らこれを舟に乗せんとしたるに、舟はたちまち行く所の地につけり。

群衆、カファルナウムに至る 22 明くる日に至りて、湖^{うみ}のこなたに立てる群衆、舟は一そのほかあらざりしに、イエズス弟子たちとともにその舟に入り給わずして弟子たちのみ行きしことを認めたり。23 おりしも別の舟どもチペリアデより来り、主の謝し給いて、おのれらがパンを食せし所に近くつきしかば、24 人々、イエズスと弟子たちとの、そこにあらざるを見て、その舟に乗り、イエズスを尋ねてカファルナウムに至れり。

信仰に関する論 25 かくて彼ら湖^{うみ}を渡り、イエズスを見つけて、ラビ³、いつここに來り給いしぞ、と言いしかば、26 イエズス彼らに答えてのたまひけるは、誠に誠に汝らに告ぐ、汝らがわれを尋ねるは奇跡を見しゆえにあらず、パンを食して飽き足りしゆえなり。27 勵くことは朽つる糧^{かさ}のためにせずして永遠の生命に至るまで存する糧^{かさ}、すなわち人の子^{*}が汝らに与えるとする糧^{かさ}のためにせよ、そは父なる神、彼を証印し給いたればなり、と。28 ここにおいて人々、イエズスに向かい、神の業^{わざ}⁵を勵かんためには、われら何をなすべきぞ、と言いしに、29 イエズス答えてのたまひけるは、汝ら、その遣わし給いし者を信するは、これ神の業^{わざ}⁵なり、と。30 ここにおいて彼らまた言ひけるは、さらばわれらをして、見て汝を信せしめんために、いかなる印をなし、何を行ない給うぞ。31 われらが先祖は荒野^{あれの}⁶にてマンナを食せり、書きしるして「彼らに天よりのパンを与え

て食せしめ給えり」とあるがごとし、と。

天よりのパン 32 その時イエズス彼らにのたまひけるは、誠に誠に汝らに告ぐ、モイゼ^{*}は天よりのパンを汝らに与えず、わが父こそ天よりの誠のパンを汝らに賜うなれ。33 けだし神のパンとは天よりくだりて世に生命を与うるものこれなり、と。34 かくて人々、主よ、このパンを常にわれらに与えよ、と言いしかば、35 イエズスのたまひけるは、われは生命のパンなり、われに来る人は飢えず、われを信する人は、いつもかわかざるべし。36 しかれども、わがすでに汝らに告げしごとく、汝らは、われを見たれども、なお信せざるなり。37 すべて父のわれに賜う者は、われに来らん、われに来る人は、われこれを追い出ださじ、38 これわが天よりくだりしは、わが意をなさんためにあらずして、われを遣わし給いしもののおぼしめしをなさんためなればなり。39 さて、われを遣わし給いし父のおぼしめしは、すべてわれに賜いし者を、われ毫^{ミリ}も失わずして、終わりの日に、これを復活せしむべきことこれなり。40 また、われを遣わし給いし、わが父のおぼしめしは、すべて子を見てこれを信仰する人は永遠の生命を得んことこれなり、かくてわれ終わりの日に、これを復活せしむべし、と。

聴聞者つぶやく 41 ここにおいて、イエズスが、われは天よりくだりたるパン⁸なり、とのたまいしたために、ユデア人ら彼につきてつぶやきつつ、42 これヨゼフの子イエズスにして、その父母は、われらが知れる者ならずや。しかるを、いかんぞ、われは天よりくだれりと言うや、と言ひければ、43 イエズス答えてのたまひけるは、汝らつぶやき合うことなかれ、44 われを遣わし給いし父の引き給うにあらずば、何人もわれに來ることを得ず、「來る人は」われ終わりの日に、これを復活

45 せしめん。45 予言者たち「の書」に書きしるして、「みな神に教えらるる者とならん」とあり。
46 父に聞きて学べる人は、みなわれに来る、46 父を人の見奉りしにはあらず、ただ神よりなる者のみ父を見奉りたるなり。47 誠に誠に汝らに告ぐ、われを信ずる人は永遠の生命を有す。

生命のパン 48 われは生命のパンなり。49 汝らの先祖は荒野あれのにマンナを食して死せしが、¹⁰ これは天よりくだるパンにして、人これを食せば死せざらんためなり。51 われは天よりくだりたる生けるパンなり。人もしこのわがパンを食せば永遠に生くべし、⁵² しかして、わが与えんとするパンは、この世を生かさんためのわが肉なり、と。

聴聞者争う 53 ここにおいてユダヤ人ら相争い、この人いかでか、おのが肉をわれらに与えて食せしむるを得んや、と言いしかば、54 イエズスのたまいけるは、誠に誠に汝らに告ぐ、汝ら人の子の肉を食せず、その血を飲まずば、汝らの内に生命を有せざるべし。55 わが肉を食し、わが血を飲む人は永遠の生命を有す、しかして、われ終わりの日に、これを復活せしむべし。¹¹ けだし、わが肉は實に食物なり。わが血は實に飲み物なり。57 わが肉を食し、わが血を飲む人は、われに留まり、われもまた、これに留まる。58 生ける父われを遣わし給いて、われ父によりて生くるごとく、われを食する人もまた、われによりて生きん。59 これぞ天よりくだりしパンなる、汝らの先祖がマンナを食して、しかも死せしがごとくならず、このパンを食する人は永遠に生くべし、と。

61-60 談話の結果 60 イエズス、カファルナウムなる会堂の内にて教えつつかくのたまいしに、61 弟子たちのうちにこれを聞きて、この物語はかたし、たれかこれを聞くことを得ん、と言う者多

かりしが、⁶²イエズス、彼らがこれにつきてつぶやけるを自ら知りてのたまひけるは、このこと汝らをつまずかしむるか、⁶³されば汝ら、もし人の子^{*}が、もとおりし所に昇るを見ばいかん。⁶⁴生かすものは靈にして、肉は益するところなし、わが汝らに語りし言葉は靈なり、生命なり、⁶⁵しかれども汝らのうちに信ぜざる者あり、と。これイエズス、もとより信ぜざる人々のたれなるか、おのれを売るべき人のたれなるかを知りい給えばなり。⁶⁶かくてのたまひけるは、さればこそ、われかつて人はわが父より賜わりたるにあらずば、われに來ることを得ず、と汝らに告げたるなれ、と。

ペトロの忠言 ちゆうごん

⁶⁷こののちは弟子たち多く退きて、もはやイエズスとともに歩まざりしかば、⁶⁸イエズス十二人に向かい、汝らも去らんと欲するか、とのたまいしに、⁶⁹シモン・ペトロ答えけるは、主よ、われらたれにか行かん、汝こそ永遠の生命の言葉を有し給うなれ、⁷⁰われらは汝が神の御子キリストなることを信じかつ悟れり、と。⁷¹イエズス彼らに答え給いけるは、われ汝ら十二人を選みしにあらずや、しかるに汝らの一人は悪魔なり、と。⁷²こはシモンの子イスカリオテのユダをのたまえるものにて、彼は十二人の一人ながらイエズスを売るべき者なればなり。

(1) およそ三十せんに当たる銀貨。②原文には二十五あるいは三十スタジオある。スタジオは約二百メートルに当たる。(3) 師よ、の意。(4) 奇跡をもつて。(5) み旨にかなう業。(6) 出エジプト記16・14、民数紀略11・6 (7) 詩編78・24 (8) ラテン訳では生けるパン。(9) イザヤ54・13、使徒行録13・40 (10) 出エジプト記16・13 (11) コリント前書11・27 (12) マテオ16・16、マルコ8・29、ルカ9・20

第四項 イエズスとユデア人との衝突しょうとつますますはなはだし

第一款 イエズス、幕屋^{まくや}の祭に行き給う

第七章

1

ユデアを避け給う 1 ユデア人が殺さんと計れるにより、イエズスそののちはユデアを巡ることを好み給わず、ガリレアを巡りい給いしが、2 ユデア人の幕屋^{*}の祝日近づきければ、3 兄弟たち^{*}イエズスに向かい、汝の行なえる業^{わざ}を弟子たちに見せんため、ここを去りてユデアに行け、4 けだし公に知れんことを求めながら、しかも、ひそかに事をなす人はあらず、かかること5 をなす上は、おのれを世に表わせかし、と言えり、6 これ、その兄弟たちも、これを信ぜざりしゆえなり。6 さればイエズス彼らにのたまひけるは、汝らの時は常に備われども、わが時は、い7 まだ至らず、7 世は汝らを憎むあたわざるに、われをば憎めり、そは、われこれにつきて、その8 仕業^{しわざ}の悪しきことを証すればなり、8 汝らは、この祭日にのぼれ、わが時、いまだ満たされば、われは、この祭日にのぼらず、と。9 かくのたまひてガリレアに留まり給いしが、10 兄弟たちの11 のぼりたるのち、自らもあらわならず忍びたるようにて祭日にのぼり給えり。11 されば祭日にあた12 りてユデア人、彼はいざこにおるぞとて、これを探し、12 また群衆のうちに、これにつきてささやく者多かりき。すなわち、ある人は彼は善人なり、と言い、ある人はいな、人民をまどわすのみ、13 と言いいたり。13 されど、いすれもユデア人の恐ろしさに、彼につきてあらわに語る人なかりき。14 イエズス、神殿にて教え給う 14 かくて祭日の半ばに、イエズス〔神〕殿にのぼりて教え給いければ、15 ユデア人驚嘆して、彼かつて学ばざるに、いかにして文字を知れるぞ、と言いたる

16 を、¹⁶ イエズス彼らに答えてのたまいけるは、わが教えは、われのにあらず、われを遣わし給い
 17 し者の「^{〔教え〕}」なり。¹⁷ そのおぼしめしを、あえてなさん人は、この教えが神よりせるか、また
 18 は、わが私に、もの言えるかを悟らん。¹⁸ おのが^{〔私〕}をもつて語る人は、おのれの光榮を求むれど
 19 も、おのれを遣わしし者の光榮を求むる人は、眞実にして内に不義あることなし。¹⁹ モイゼ^{*}は律
 20 法^{*}を汝らに授けしに、汝らのうちにこれを行なう者なきは何ぞや、²⁰ 汝ら、いかんぞ、われを殺さ
 21 んとは計る⁴、と。群衆答えて、汝は惡魔につかれたり、たれか汝を殺さんとはする、と言いしか
 ば、²¹ イエズス答えてのたまいけるは、われ一つの業⁵をなししに、汝らみなこれをいぶかれり、
 22 それモイゼ割礼⁶を汝らに授けたれば⁶、モイゼより出でしにあらずして先祖より出でたるものな
 23 るに^{II}、汝ら安息日にも人に割礼を行ない、²³ モイゼの律法を破らじとて、人は安息日にも割礼を
 24 受くるに、わが安息日に人の全身をいやしたればとて、汝らのわれを憤るは何ぞや。²⁴ 外見によ
 りて是非することなく、正しき判断によりて是非を定めよ、と。

人々の批評 ²⁵ ここにおいてエルザレムのある人々言ひけるは、これ人々が殺さんと計れる者
 26 にあらずや、²⁶ 見よ、公然と談話すれども人はこれに何をも言わず。司^{〔つかさ〕}たちは彼がキリストたる
 27 ことを誠に認めたるか、²⁷ さりながら、われらはこの人のいづこの者なるかを知れり、キリスト
 の来る時には、そのいづこよりせるかを知る人あらじ、と。²⁸ しかるにイエズス神殿にて呼ばわ
 りつつ教えてのたまいけるは、汝らはわれを知り、また、わがいづこより来れるかを知れり、し
 かれども、われはおのれによりて來りたるにあらず、われを遣わし給いしものは眞実にてましま
 す、汝らはこれを知らず、²⁹ われはこれを知れり、そはわれ彼より出でて、彼われを遣わし給い

30 たればなり、と。30 ここにおいて彼らイエズスを捕えんと計れども、たれも手をかくる者なかりき、そは彼が時いまだ至らざればなり。

31 フアリザイ人の憤懣ふんまん 31 されど人民のうちには、これを信じたる者多く、キリスト来ればとて、
 32 あにこの人のなすより多くの奇跡をなさんや、と言いたり。32 人民がイエズスにつきて、かく
 ささやける由よし、フアリザイ人*の耳に入りしかば、司祭長とフアリザイ人とは、下役どもを遣わし
 33 てイエズスを捕えしめんとせしを、33 イエズス彼らにのたまひけるは、われ、なおしばらく汝ら
 34 とともにおりて、さて、われを遣わし給いしものに行かんとす、34 汝らわれを尋ねべけれど、しか
 35 もわれに会わじ、わがおる所には汝ら來ることあたわず、と。35 ここにおいてユデア人ら語り合
 36 いけるは、われら彼に会わじとて、彼はいざこに行かんとするぞ、異邦人いほうじん*のうちに散在せる同邦
 人のもとに行きて、異邦人を教えんとするか、36 その言葉に、汝らわれを尋ねべけれど、しかも
 われに会わじ、わがおる所には汝ら來ることあたわず、と言いしは何ごとぞや、と。

37 大祭日に教え給う 37 祭の果はその日すなわちその大祭日に、イエズス立ちて呼ばわりつつのたま
 38 いけるは、かわける人あらば、わがもとに來りて飲め、38 われを信する人は、聖書に言えるごと
 39 く生ける水の川その腹より流れ出ずべし、と。39 かくのたまひしは、おのれを信する人々に賜わ
 るべき「聖」靈のことなりき、そはイエズスいまだ光榮を受け給わざるにより、「聖」靈はいま
 だ賜わらざりしがゆえなり。

40 人民の種々の批評 40 かくて、かの群衆のうちに、これらの言葉を聞きて、これ誠に、かの予
 言者なり、と言う人あり、41 これキリストなり、と言う人もありき。されどある人は、キリスト

42 はガリレアより出¹⁰べきものなるか、42 聖書にキリストはダヴィドの末より、またダヴィドのいた
 43 りしペト¹⁰レームの町より出¹⁰すと言えるにあらずや、と言いつつ、43 イエズスにつきて群衆のうち
 44 に争論^{いきがい}を生じたり。44 中にはイエズスを捕えんと欲する者ありたれど、たれも手をかくる者なか
 りき。

45 司祭長らの批評 45 されど下役どもは、司祭長^{*}とファリザイ人とのもとに帰りしに、何ぞ彼を
 46 引き来らざる、と言われて、46 下役ども、この人のごとく語りし人は、いまだかつてあらず、と答
 えしかば、47 ファリザイ人答えるは、汝らもまた、まどわされしか、48 頭^{かしら}およびファリザイ人
 49 のうちに、一人だも彼を信じたる者ありや、49 されど律法^{*}¹¹を知らざる、かの群衆は呪われたる者
 50 なり、と。50 かつて夜、イエズスに至りし、かのニコデモは、そのうちの一人なりしが、彼らに
 51 向かいて、51 わが律法は、まずその人にも聞きたださず、そのなすところをも知らずして、これ
 52 を罪に定むるものなるか、と言いしかば、52 彼ら答えて言ひけるは、汝もまたガリレア人なるか、
 聖書を探り見よ、さて予言者はガリレアより起こるものにあらずと悟れ、と。53 かくて、おのお
 の自宅に帰れり。

①レビ記23・33と36、申命記16・13と15 ②祭の三、四日ごろ。③出エジプト記24・3 ④本書5・18 ⑤本書5
 • 1と16 ⑥創世記17・10、レビ記12・3 ⑦本書13・33 ⑧イザヤ44・3、58・11、ヨエル2・28、使徒行録
 2・17 ⑨本書6・14を見よ。⑩ミケア5・2、マテオ2・6 ⑪本書3・1



姦婦の事件

1 イエズス、かんらん山に行き、2 夜明けにまた〔神〕殿に至り給いしに、
 3 人民みな御もとに來りければ、坐してこれを教えい給いしが、3 律法學士^{*}、ファリザイ人ら、姦淫^{かんいん}
 4 せる時、捕えられたる一人の女を引き來りてこれを真中^{まんなか}に立たせ、4 イエズスに言ひけるは、師

5 よ、この女は、今姦淫かんいん¹せるところを捕えられたり、5 モイゼは律法*において、かかる者に石を投げ打つことをわれらに命じたるが、汝はこれを何と言うぞ、と。6 かく言えるは、イエズスを試みて訴うるかどを得んためなりしが、イエズスは身をかがめ指もて地にものを書き給えり。

7 7 しかるに彼ら聞いてやまざりしかば、イエズス立ち上がり、汝らのうち罪なき人は先に石を彼に投げ打つべし、とのたまい、8 再び身をかがめて地にもの書き給えるに、9 彼ら聞きて、年とし寄よを初めとして一人一人に立ち去り、ただイエズスと真中まんなかに立てる女とのみ残りしかば、10 イエズス立ち上がりて、これにのたまいけるは、女よ、汝を訴えたりし人々はいざこにおるぞ、たれも汝を罪に定めざりしか、と。11 女、主よ、たれも、と言ひしかば、イエズスのたまいけるは、われも汝を罪に定めじ、行け、こののちまた罪を犯すことなかれ、と。

12 イエズスの自証 12 さてイエズス、再び人々に語りて、われは世の光なり、われに従う人は暗闇あんあんを歩まず、かえつて生命の光を得べし、とのたまいければ、13 フアリザイ人*これに言ひけるは、汝は自らおのれを証明す、汝の証明は真実ならず。14 イエズス答えてのたmaiけるは、われはおのれを証明すれども、わが証明は真実なり、これ、わがいづこより來りて、いづこに行くかを知ればなり。されど汝らは、わがいづこより來りて、いづこに行くかを知らず、15 汝らは肉身によりて是非ぜし、われはたれをも是非せず、16 もし是非することあれば、わが是非するところは真実なり、そは、われ一人にあらずして、われと、われを遣わし給いし父となればなり。17 汝らの律法に書きしるして、「二人ふたどんの証は真実なり」²とあり、18 われはおのれを証し、われを遣わし給いし父もまた、われを証し給うなり、と。19 彼ら、すなわちイエズスに向かい、汝の父いづこにか

ある、と言いかば、イエズス答へ給いけるは、汝らは、われをも、わが父をも知らず、もし、
 われを知りたれば、必ずわが父をも知れるならん、と。20 イエズスが、かく語り給いしは、「神」
 殿の内、さいせん箱のかたわらにて教えつゝありし時なれども、たれも手をかくる者なかりき。
 そは彼の時いまだ至らざればなり。

不 信 者 と が め ら る 21 さればイエズス、再び彼らに向かい、われは行く、汝らわれを尋ねべけ
 れども、おのが罪のうちに死せん、わが行く所には汝ら来るあたわづ、とのたまひしかば、22 ヨ
 デア人、彼は、わが行く所には汝ら来るあたわづと言ひしが、自殺せんとするか、と言ひけるに、
 23 イエズスのたまひけるは、汝らは下よりせるに、われは上よりせり、汝らはこの世の者なるに、
 われはこの世の者にあらず、24 われこれによりて、汝らおのが罪のうちに死せんと言えり、けだ
 し汝ら、もしわがそれなることを信ぜずば、おのが罪のうちに死すべし、と。25 彼ら、汝はたれ
 なるぞ、と言いかば、イエズスのたまひけるは、われはすなわち、もとより汝らに告ぐること
 ろの者なり。26 われ汝らにつきて言うべきこと、裁くべきこと多し、さりながら、われを遣わし
 給いしものは眞実にてましまし、わが世にありて語るところは彼より聞きしものなり、と。27 か
 くとも彼らは、イエズスが神をわが父と称し給えることを悟らざりき。28 さればイエズス彼らに
 のたまひけるは、汝ら、人の子*4をあげたらん時、わがそれなることを悟り、また、わが私には何
 ごとをもなさず、父の教え給えるままに、これらのことと語るを悟らん。29 われを遣わし給いし
 ものは、われとともにましまして、われを一人ならしめ給わず、そは、わが常にみ心にかなえる
 ことをなせばなり、と。

アブラハムの子ども 30 かく語り給えるに、信仰する人多かりければ、31 イエズスおのれを信じたるユデア人に向かい、汝ら、もしあが言葉に留まらば誠にわが弟子にして、かつ真理を悟り、32 真理は汝らを自由ならしめん、とのたまいしかば、33 彼ら答へけるは、われらはアブラハムの子孫にして、いまだかつて、たれにも奴隸^{ドロイ}たりことなし、何ぞ、汝ら自由なるべしと言うや、34 と。35 イエズス彼らに答へ給いけるは、誠に誠に汝らに告ぐ、すべて罪を犯す人は罪の奴隸なり、36 奴隸は限りなく家に留まるものにあらず、子こそは限りなく留まるなれ、37 されば、子もし汝らを自由ならしめば、汝ら實に自由なるべし。38 汝らがアブラハムの子孫なることは、われこれを知れり、されども、わが言葉、汝らのうちに入れられざるによりて、汝らわれを殺さんとす。39 われは、わが父につきて見しところを語り、汝らは、おのが父につきて見しところを行なうなり、と。40 彼ら答えて、われらの父はアブラハムなり、と言ひしかば、イエズス彼らにのたまいけるは、汝ら、もしあアブラハムの子どもならばアブラハムの業^{ヤシキ}をなせ、41 しかるに汝らは今、神より聞きたる真理を汝らに告ぐる人たるわれを殺さんと計る、これアブラハムのなさざるところ、42 通^{つう}によりて生まれし者にあらず、われらに唯一^{ヨウイ}の父すなわち神あり、と。43 イエズスすなわち彼らにのたまひけるは、神もし汝らの父ならば汝らは必ずわれを愛するならん、そはわれ神より出で來りたればなり、すなわち、われは私^{わたくし}に來りしにあらず、神こそ、われを遣わし給いしなれ。44 汝らは悪魔なる父より出でて、あえておのが父の望みを行なう、彼は初めより殺人者にして真理

に立たざりき、真理は彼のうちにあらざればなり、彼は偽りを言う時、おのれより語る、そは偽り者にして、しかも偽りの父なればなり。45 われ真理を説けども汝らこれを信せず、46 汝らのうち、たれかわれに罪あることを証せん。われ汝らに真理を説くも、われを信せざるは何ゆえぞ、47 神よりの者は神の言葉を聞く、汝らの聞かざるは神よりの者ならざるによれり、と。48 かくてユデア人答えてイエズスに言ひけるは、われらが、汝はサマリア人にして悪魔につかれたる者なり、と言えるは宜^{うべ}ならずや。49 イエズス答え給ひけるは、われ惡魔につかれず、かえつて、わが父を尊ぶるに汝らはわれを侮辱す。50 ただし、われはおのれの光榮を求めず、これを求め、かつ審判し給うものは別にあり。51 誠に誠に汝らに告ぐ、人もしわが言葉を守らば永遠に死を見ざるべし、と。52 ここにおいてユデア人答えては、われら汝が惡魔につかれたるを今こそは悟りたれ、アブラハムも死し、予言者たちも死せり、しかるを汝、人もしわが言葉を守らば永遠に死を味わわじと言う。53 汝は、われらの父アブラハムよりも大いなる者なるか、彼も死し予言者も死したるに、汝はおのれをたれなりとするぞ。54 イエズス答え給ひけるは、われ、もし自らおのれに光榮を帰せば、わが光榮は皆無^{かいむ}なるべし、われに光榮を帰するものは、わが父なり。すなわち汝らが、おのれの神と称するものなり。55 汝らは彼を知らざれども、われは彼を知り、かつ彼の言葉を知らずと言わば、汝らと等しく偽り者たるべし、されども、われは彼を知り、かつ彼の言葉を守る。56 汝らの父アブラハムは、わが日を見んと楽しみしが、見て喜べり、と。57 ここにおいてユデア人、イエズスに向かい、汝いまだ五十歳ならざるに、しかもアブラハムを見たりしや、と。58 言いたるに、58 イエズスのたまひけるは、誠に誠に汝らに告ぐ、われはアブラハムの生まるるに

59

先立ちて存す、と。59 ここにおいて人々、石を取りてイエズスに投げ打たんとしけるに、イエズス身を隠して「神」殿より出で給えり。

①レビ記20・10、申命記22・23、24 ②申命記17・6、19・15 ③ラテン訳では、あるいは。④すなわちキリスト。

第二款 生まれながらのめしいやさる

めしいのいえし次第 1 イエズス、通りがかりに一人の生まれながらのめしいを見給い
 しかば、2 弟子たち、ラビ¹、この人のめしいに生まれしは、たれの罪ぞ、おのれの罪か、両親の
 罪か、と問いたるに、3 イエズス答え給いけるは、この人も、その親も罪を犯ししにあらず、彼が
 4 身の上に神の業の現われんためなり。4 われを遣わし給いしものの業を、われ雇の間になさざる
 5 べからず、たれも業をなすあたわざる夜は、まさに来らんとす、5 われ世にある間は世の光なり、
 6 と。6 かくのたまいてイエズス地につばきし、つばきをもつて泥を作り、これを彼の目に塗りて、
 7 7 のたまいけるは、シロエの池に至りて洗え、と。シロエとは遣わされたる者と訳せらる。彼す
 なわち行きて洗いしに、目明きて歸れり。

8 人民の尋問 ^{じんもん} 8 かくて隣人およびかつて彼が乞食^{こうじき}せるを見し人々は、これすわりて乞食^{こうじき}した
 9 りし者ならずや、と言えば、ある人は、それなり、と言い、9 ある人はいなそれに似たる人なり、と言
 10 うを、彼は、われそれなり、と言いいたり。10 されば彼ら、汝の目は、いかにして明きたるぞ、
 11 と言えるに、11 彼答えるは、かのイエズスと称する人、泥を作りてわが目に塗り、シロエの池

12 に至りて洗えと言ひしかば、われ行きて洗いて、さて見ゆるなり、と。12人々、その人はいづこ
にあるぞ、と言ひしに、彼、われはこれを知らず、と言えり。

15 14-13 フアリザイ人の尋問 13 彼ら、そのめしいなりし人をフアリザイ人のもとに伴い行きしが、14
イエズスの、泥を作りてその目を明け給いしは安息日なりければ、15 フアリザイ人、更に、いか
にして見ゆるに至りしそ、と問えるを、彼答えて、かの人わが目に泥を塗り、われこれを洗いた
れば見ゆるなり、と言ひしかば、16 フアリザイ人のある者は、安息日を守らざるかの人は神より
の者にあらず、と言い、ある者は、罪人なる者いかでか、かかる奇跡を行なうを得んや、と言
17 て彼らの間に争論ありき。17 されば重ねてめしいなりし人に、汝は、その目を明けし人を何と言
うぞ、と言えば、彼は、予言者なり、と言えり。

18 両親呼び出ださる 18 ユデア人は、彼がかつてめしいにして見ゆるようになれるを信ぜざれば、
ついに、かの目明きし人の両親を呼び、19 問いて言ひけるは、めしいに生まれしと汝らが言える
その子は、これなるか、さらば、いかにして今見ゆるぞ、と。20 両親答えて、彼がわが子なるこ
とと、めしいに生まれしことは、われらこれを知る、21 されど、いかにして今見ゆるかを知ら
ず、また、その目を明けし者のたれなるかは、われらは知らざるなり、彼に聞え、彼年たけたれ
ば、自らおのがことを語るべし、と言えり。22 両親のかく言ひしは、ユデア人を恐れたるゆえに
して、彼らが、イエズスをキリストなりと宣言する人あらば、これを会堂より追い出だすべし、
と言ひ合わせたるによれり、23 彼年たけたればこれに聞え、と両親の言ひしはこれがためなり。
本人また呼び出ださる 24 ここにおいて彼ら、再び、かのめしいなりし人を呼び出だして、汝、

25 神に光榮を帰せよ、われらは、かの人の罪人なることを知れり、と言いしかば、²⁵彼言ひけるは、
 彼が罪人なりやは、われこれを知らず、わが知るところは一つ、すなわちめしいなりしに今見ゆ
 ること、これなり、と。²⁶その時彼らまた、かの人、汝に何をなししそ、いかにして汝の目を明
 けしそ、と言ひしに、²⁷彼、われすでに汝方に告げて汝方これを聞けり、何すれぞ、また聞かん
 とはする、汝らも、その弟子とならんことを欲するか、と答えしかば、²⁸彼らこれを呪いて言い
 けるは、汝は彼の弟子にてあれ、われらはモイゼ^{*}の弟子なり、²⁹われらは神がモイゼに語り給い
 しことを知れど、かの人の、いざこよりせるかを知らず、と。³⁰めしいなりし人答えて、汝らが、
 そのいざこよりせるかを知らざることぞ怪しけれ、彼わが目を明けしものを。³¹われらは知る、神
 は罪人^{つみびと}に聞き給わず、されど神に奉事して、み旨を行なう人あれば、これに聞き給うことを。³²
 開闢以来、生まれながらなるめしいの目を明けし人あることを聞かず、³³かの人もし神より出で
 たるにあらずば何ごともなし得ざりしならん、と言ひしかば、³⁴ファリザイ人答えて、汝は全
 く罪のうちに生まれたるに、なお、われらを教うるか、と書いて、これを追い出だせり。

本人、イエズスにまみゆ ³⁵イエズスその追い出だされしことを聞き、これに出会い給いし時、
 汝、神の子³を信仰するか、とのたまひしに、³⁶彼答えて、主よ、わがこれを信仰すべき者はたれ
 ぞ、と言ひしかば、³⁷イエズスのたまひけるは、汝それを見たり、汝と語る者すなわちこれなり、
 と。³⁸彼、主よ、われは信ず、と書いて、平伏しつつイエズスを礼拝せり。³⁹イエズスのたまひ
 けるは、われ審判^{しんばん}⁴のために、この世に来れり、すなわち目見えざる人は見え、見ゆる人はめしい
 となるべし、と。⁴⁰ファリザイ人のうちイエズスとともにありし者これを聞きて、われらもめし

41 いなるか、と言ひしかば、41イエズス彼らにのたまひけるは、汝らめしいならば罪なかるべし、
されど今自ら見ゆと言うによりて汝らの罪は残るなり。

①師よ、の意。②土曜日。③あるいは人の子。④本書3・19、5・25、ルカ2・34

第三款 良き牧者ぼくしゃ



真しん

の牧者

1 誠に誠に汝らに告ぐ、羊の檻おりに入るに門よりせずして他の所より越ゆるは

3-2 盗人ぬすびとなり強盜こうとうなり、2門より入るは羊の牧者なり、3門番は彼に戸を開き、羊はその声を聞き、

4 彼また、おのが羊をいちいちに名ざして引き出だす、4かくてその羊を出だせば、彼先立ちて行

5 き、羊これに従う、その声を知ればなり、5しかれども他人には従わず、かえつてこれを避く、

6 他人の声を知らざればなり、と。6イエズスこのたとえを彼らにのたまひしかど、彼らはその語

り給うところの何たるを悟らざりき。

この例の應用 7さればイエズス再び彼らにのたまひけるは、誠に誠に汝らに告ぐ、われは羊

の門なり、8すでに來りし人はみな盗人、強盜にして、羊これに聞き従わざりき。9われは門な

り、人もし、われによりて入らば救われ、出入りして牧場まきばを得べし。10盗人の来るは盗み、殺し、

11滅ぼさんとするにほかならざれども、11わが来れるは羊が生命を得、しかもなお豊かに得んため

なり。われは良き牧者なり、良き牧者は、その羊のために生命いのちを捨て、12されども牧者にあらず

して羊のわがものにあらざる雇われ人は、狼の来るを見れば羊を捨てて逃げ、狼は羊を奪い、かつ

14 追い散らす。13 雇われ人の逃ぐるは雇われ人にして羊をいたわらざるゆえなり。14 われは良き牧者にして、わが羊を知り、わが羊またわれを知る。15 あたかも父われを知り給い、われまた父を知り奉るがごとし、かくてわれは、わが羊のために生命^{いのち}を捨て。16 われはまた、この檻^{おき}に属せざる他の羊を持てり、彼らをも引き来らざるべからず、さて彼らわが声を聞き、かくて一つの檻、一人の牧者となるべし。17 父のわれを愛し給えるは、これを再び取らんがために、わが生命^{いのち}²を捨てるによる、18 たれもこれをわれより奪う者はあらず、われこそ自らこれを捨つるなれ。われは、これを捨つるの權を有し、また再びこれを取るの權を有す、これわが父より受けたる命^{めい}なり、と。

争いまた起こる 19 これらの物語のために、ユデア人のうちにまた争論^{いきかい}起これり、20 そのうちには、彼は悪魔につかれて狂えるなり、汝ら何ぞこれに聞くや、と言う人多かりしが、21 他の人は、これ悪魔につかれたる者の言葉にあらず、悪魔、あにめしいの目を明くることを得んや、と言いいたり。

第四款 イエズス、奉殿記念祭^{ほうでんきねんさい}にのぼり給う

イエズス、父と同一体^{どういつたい} 22 さてエルザレムに奉殿記念祭行なわれて、時は冬なりしが、23 イエズス「神」殿にありてサロモンの廊^{ろう}を歩みい給うに、24 ユデア人これを取り囲みて、汝、いつもわれらの心³を疑惑せしむるぞ、汝もしキリストならば明からさまにわれらに告げよ、と言ひければ、25 イエズス彼らに答え給いけるは、われ汝らに語れども汝ら信ぜざるなり、わが父のみ名

をもつて行なえる業、これぞわれを証明するものなるに。²⁶汝らなお、これを信せず、これ、わが羊の数^{かず}に入らざればなり。²⁷わが羊はわが声を聞き、われ彼らを知り、彼らわれに従う、²⁸かくて、われ永遠の生命を彼らに与え、彼ら、とこしなえに滅びず、たれも彼らをわが手より奪わじ、²⁹これをわれに賜いたるわが父は、いつさいにすぐれて大いにましまし、たれもわが父のみ手より、これを奪い得る者なし、³⁰われと父とは一つなり、と。

²⁸⁻²⁷ ²⁶ ユデア人、石を投げ打たんとす ³¹ここにおいてユデア人、石を取りてイエズスに投げ打たんとせしかば、³²イエズス彼らにのたまひけるは、われ、わが父によれる善業を多く汝らに示しが、汝らそのいづれのために、われに石を投げ打たんとはするぞ。³³ユデア人答えけるは、われらが汝に石を投げ打つは善業のためにあらず、冒瀆^{ぼうそく}のため、かつ汝が人にてありながら、おのれを神とするゆえなり。³⁴イエズス彼らに答え給ひけるは、汝らの律法に書きしるして「われ言えらく、汝らは神なり」⁵とあるにあらずや、³⁵かく神の言葉を告げられたる人々を神と呼びたるに、しかも聖書は廃すべからず、われは神の子なりと言いたればとて、³⁶汝らは父の成聖^{せいせい}して世に遣わし給いし者に向かいて、汝は冒瀆すと言うか、³⁷われもし、わが父の業をなさば、われを信ずることなかれ、³⁸されど、われもしこれをなさば、あえてわれを信せずとも業を信せよ、さらば父のわれにいまし、われの父におることを悟りて信するに至らん、と。³⁹ここにおいて彼らイエズスを捕えんと計れるを、彼らの手をのがれて、⁴⁰ヨルダン〔川〕のかなた、ヨハネが初めに洗しつつありし所に至り、そこに留まり給いしに、⁴¹多くの人御もとに來りて、ヨハネは何の奇跡をも行なわざりしかど、⁴²この人につきて告げしことは、ことごとく誠なりき、と言いつつイ

エズスを信仰せる者多かりき。

①羊とは信者の形容。②原文には魂。③原文には魂。④ラテン訳では、わが父のわれに賜いたるものはいつさいにすぐれて大いなり。⑤詩編81・6

第五項 衝突その極に達す

第一款 ラザルの復活



ラザルの死去 1さてマリアとその姉妹マルタとの里なるベタニアにラザルと言える人病みおりしが、2マリアはすなわち香油を主に注ぎ¹御足をおのが髪の毛にて拭いし女にして、3病めるラザルはその兄弟なり。3されば彼が姉妹ら、人をイエズスの御もとに遣わし、主よ汝の愛し給う人病めり、と言わしめしに、4イエズス聞きてのたまいけるは、この病は死に至るものにあらず、神の光榮のため、神の子がこれによりて光榮を得んためなり、と。5イエズスはマルタと、その姉妹マリアとラザルとを愛しい給いしが、6ラザルの病めるを聞き、なお同じ所に留まること一日にして、7ついに弟子たちに向かい、われらまたユデアへおもむかん、とのたまいしかば、8弟子たち言ひけるは、ラビ、ただ今ユデア人が汝に石を投げ打たんとしたりしに、また9もかしこへ行き給うか。9イエズス答えてのたまいけるは、一日に十二時あるにあらずや、人、10昼歩む時は、この世の光を見るゆえにつまずかざれども、10夜歩む時は、身に光あらざるゆえに

11 つまづくなり、と。11 かくのたまいてのちまた、われらが親友ラザルは眠れり、されどわれ行き
 て、これを眠りより呼び起ことさん、とのたまいしかば、12 弟子たち、主よ、眠れるならば彼はい
 ゆべきなり、と言えり。13 ただしイエズスののたまいしは彼が死のことなりしを、弟子たちは眠
 りてふせることをのたまいしならんと思いたりければ、14 イエズス明らかにのたまいてるは、ラ
 ザルは死せり、15 われは汝らのため、すなわち汝らを信ぜしめんために、わがかしこにあらざり
 しことを喜ぶ、いざ彼がもとに行かん、と。16 さればジジモと呼ばれたるトマ、その相弟子に言
 いけるは、いざわれらも行きて彼とともに死なん、と。

17 マルタとマリア、イエズスにまみゆ 17 かくてイエズス、至りて見給いしに、ラザルは墓にあ
 ることすでに四日なりき。18 しかるにベタニアはエルザレムに近くして、二十五町ばかりを隔て
 たれば、19 あまたのユデア人、マルタとマリアとを、その兄弟のことにつきて弔わんために來り
 てありき。20 マルタはイエズス來り給うと聞くや、すなわち出で迎えしが、マリアは家の内に坐
 したり。21 マルタ、イエズスに言ひけるは、主よ、もしここにいまししならば、わが兄弟は死
 なざりしものを、22 されど神に何ごとを求め給うとも神これを汝に賜うべしとは、今もわが知れ
 るところなり、と。23 イエズス、汝の兄弟は復活すべし、とのたまいしかば、24 マルタ言ひける
 は、われは彼が終わりの日、復活の時に復活すべきことを知れり、と。25 イエズス、われは復活
 なり、生命なり、われを信する人は死すとも生ぐべし、26 また生きてわれを信する人は、すべて
 永遠に死することなし、汝これを信するか、とのたまいしに、27 マルタ言ひけるは、主よ、しか
 り、われは汝が生ける神の御子キリストのこの世に來り給いたる者なるを信す、と。28 かく言い

てのち、行きてその姉妹マリアを呼びささやきて、師ここにいまして汝を召し給う、と言ひしに
31 30-29
29 彼これを聞くや、ただちに立ちてイエズスのもとに至れり、30 すなわちイエズスいまだ里^{さと}に入
り給わずして、なおマルタが出で迎えし所に居給いしなり。31 さればマリアとともに家にありて
これを弔いいたりしユデア人、彼が速かに立ちて出でしを見、彼は泣かんとて墓に行くぞ、と言
32 いつつあとに従いしが、32 マリアはイエズスの居給う所に至り、これを見るや御足もとに平伏し
て、主よ、もしここにいまししならば、わが兄弟は死なざりしものを、と言ひければ、33 イエズ
ス、彼が泣きおり、伴い来れるユデア人も泣きおれるを見、胸中感激して御心を騒がしめ給い、
34 34 汝らいすこに彼を置きたるぞ、とのたまひしに、彼らは、主よ、來り見給え、と言ひければ、
35 イエズス涙を流し給えり。

ラザルよみがえらざる 36さればユデア人、見よ、彼を愛し給いしことのいかばかりなるを、
37と言ひしが、37またそのうちに、ある人々、彼は生まれながらなるめしいの目を明けしに、この
38人を死せざらしむるを得ざりしか、と言ひければ、38イエズスまた心中感激しつつ墓に至り給え
39り。墓は洞ほらにして、これに石をおおいてありしが、39イエズス、石を取りのけよ、とのたまえば、
40死人の姉妹マルタ言ひけるは、主よ、もはや四日目なれば彼はすでに臭きなり、と。40イエズス
41のたまひけるは、汝もし信せば神の光榮を見るべし、と、われ汝に告げしにあらずや、と。41か
くて石を取りのけしに、イエズス目をあげてのたまひけるは、父よ、われに聞き給いしことを謝
し奉る。42いつもわれに聞き給うことは、われもとよりこれを知れども、汝のわれを遣わし給い
しことを彼らに信ぜしめんとて、立ち会える人々のためにこれを言えるなり、と。43かくのたま

44 い終わりて声高く、ラザル出で来れ、と呼ばわり給いしに、44死したりし者、たちまち手足を布に巻かれたるままにて出で來り、その顔はなお汗拭きに包まれたれば、イエズス人々に、これを解きて行かしめよ、とのたまえり。

45 その奇跡の結果 45さればマリアとマルタとのもとに来合わせてイエズスのなし給いしことを見しユデア人のうちには、これを信じたる者多かりしが、46中にはファリザイ人のもとに至りて、イエズスのなし給いしことを告ぐる者ありしかば、47司祭長*、ファリザイ人ら議会を召集して、この人あまたの奇跡をなすを、われらはいかにすべきぞ、⁸ 48もし、そのままに許しあかば、みな彼を信仰すべく、またロマ人來りてわれらの土地と国民とを滅ぼすべし、と言いたるに、49そのうちの一人、カイファと呼ばれる者、その年の大司祭*なりけるが、彼らに言ひけるは、汝らは事を解せず、50また一人、人民のために死して全国民の滅びざるは汝らに利あることを思わざるなり、と。51彼はおのれより、これを言いしにあらず、その年の大司祭なれば、イエズスが国民のために死し給うべきことを予言したるなり、52すなわち、ただにこの国民のためのみならず、散り乱れたる神の子どもを一つに集めんがためなりき。53さればこの日より、彼らイエズスを殺さんと計りしかば、54イエズスもはや、あらわにユデア人のうちを歩み給わず、荒野あれのにつづける地方に行き、エフレムと言える町に至りて弟子たちとともに、そこに留まりい給えり。55かくてユデア人の過ぎ越し*の祭近づきければ、これに先立ちて身を清めんために、地方よりエルザレムにのぼれる人多かりしが、56彼らイエズスを探しつつ「神」殿に立ちて、汝らいかに思うぞ、彼はこの祭に來らざるか、と語り合えり。司祭長、ファリザイ人らはイエズスを捕うべきにより、こ

れが在り家を知れる人あらば申し出ずべし、と、かねて命令を出だしたりしなり。

①本書12・1～8、ルカ7・37 ②師よ、の意。③本書10・31 ④原文には、およそ十五スタジオとあって、一スタジオは約二百メートルに当たる。⑤ルカ14・14、本書5・29 ⑥本書6・40 ⑦本書9・1～7 ⑧あるいは、われらは何をかなす。⑨ラテン訳では祭日。

第二款 イエズスの聖役終わらんとす



ペタニアにて香油を注がれ給う（マルコ14章6節13節）

1 過ぎ越しの祭の六日前、イエズ

ス、ベタニアに至り給いしに、これラザルの死したりしを復活せしめ給いし所なれば、2 ある人、イエズスのために晩さんを設け、マルタ給仕しけるが、ラザルはイエズスとともに食卓につける者の一人なりき。3 しかるにマリアは、価高き純粋のナルドの香油こうゆ一斤きんを取りてイエズスの御足に注ぎ、御足をおのが髪の毛もて拭いしかば、香油の香り家に満てり。4 その時、弟子の一人、イエズスを売るべきイスカリオテのユダ、5 何ゆえに、この香油を三百デナリオ1に売りて貧者に施さざりしそ、と言えり。6 ただし、かく言いしは貧者をおもんばかりるゆえにあらず、おのれ盜人にして金袋を預かり、内に入れらるるものを取りゆえなり。7 しかるにイエズスのたまいけるは、この女をさしあげ、わが葬ほうむりの日のために、この香油をたくわえたるなり、8 そは貧者は常に汝らとともにおれども、われは常におらざればなり、と。9 かくてユダ人の大群衆、イエズスのここに居給うを知り、一人イエズスのためのみならず、死者のうちより復活せしめ給いしラザルを見んとて來りしが、10 司祭長はラザルをも殺さんと思えり、11 こは彼のために、去

りてイエズスを信仰する者、ユデア人のうちに多ければなり。

エルザレムにおける歓迎

12 明くる日、祭日のために来りしおびただしき群衆、イエズス、エ

13 ルザレムに来り給う由よしを聞きて、13 棕しゅうの葉を取りて出で迎え、ホザンナ、主のみ名によりて来るイスラエルの王、祝せられ給えかし、と呼ばわりおりしが、14 イエズスは小ろばを得て、これに乗り給えり、書きしるして、15 「シオンの娘よ、恐ることなけれ、見よ、汝の王は牝めのの子に乗りて来る」とあるがごとし。16 弟子たち、初めはこれらのこと悟らざりしが、光榮を得給いてのち、そのイエズスにつきて書きしるされたりしこと、自ら御ためになしことを思い出だせり。17さてイエズスがラザルを墓より呼び出だして死者のうちより復活せしめ給いし時、彼とともに居合わせたりしおびただしき人々証明し、18 群衆もまた、イエズスがこの奇跡をなし給いしを聞きて出で迎えしかば、19 ファリザイ人語り合いけるは、汝ら何のかいもなきを見ずや、世すでにござりて彼に従えり、と。

異邦人、イエズスにまみえんとす 20 しかるに祭日に礼拝せんとのぼりたる人々のうちに異邦人*1もありしが、21 この人々ガリレアのベッサイダ生まれなるフィリッポに近づき、これにいて、君よ、われらはイエズスにまみえんことを欲す、と言いしかば、22 フィリッポ來りてアンデレアに告げ、アンデレアとフィリッポと、またイエズスに告げしに、23 イエズス答えてのたまいけるは、人の子*2が光榮を得べき時來れり。24 誠に誠に汝らに告ぐ、麦の粒地に落ちてもし死せざれば、25 ただ一つにして留まるも、もし死すれば多くの実を結ぶ。おのが生命5を愛する人はこれを失い、この世にて生命を憎む人は、これを保ちて永遠の生命に至るべし、26 人もしわれに仕え

27 仕えれば、わが父これに榮誉を賜わん。27 今やわが心騒ぎり、われ何をか言わん、父よ、われを救いて、この時をまぬがれしめ給え、さりながら、われはこれがためにこそ、この時に至れるなれ、
 28 父よ、み名に光榮あらしめ給え、と。その時、声、天より来りていわく、われすでに光榮あらしめたり、更に光榮あらしめん、と。29 ここにおいて立ちてこれを聞いたる群衆は、いかずちなるは、この声の來りしは、わがためにあらずして汝らのためなり。31 今は世の審判なり、この世の頭かしら⁷、今、追い出だされんとす、32 われ地より上げられたる時は、万民8をわれに引き寄せん、
 30 れりと言ひ、ある人々は、天使彼にもの言いたるなり、と言えり。30 イエズス答えてのたまいけり。31 るは、この声の來りしは、わがためにあらずして汝らのためなり。31 今は世の審判なり、この世の頭かしら⁷、今、追い出だされんとす、32 われ地より上げられたる時は、万民8をわれに引き寄せん、
 32 33 34-33 32 31 30 29 28 27
 33 かくのたまえるは、いかなる死にざまをもつて死すべきかを示し給わんとてなるに、34 群衆これに答えるは、キリストは永遠に存すとこそ、われらは律法より聞けるものを、汝、何ぞ人の子*上げらるべしと言うや、人の子とはこれたれなるぞ、と。35 イエズスすなわち彼らにのたまひけるは、光は、なおしばらく汝らのうちにあり、汝ら光を有する間に歩みて闇に追いつかる
 36 な。闇に歩む人は行く先を知らず、36 汝ら光を有する間に光の子とならんために光を信ぜよ、と。
 37 かくのたまひてのち、イエズス去りて身を彼らより隠し給えり。

ユデア人の不信 37 かばかり、おびただしき奇跡を彼らの前になし給いたれど、彼らなおイエズスを信せざりき。38 これ予言者イザヤの言葉の成就せんじょうじゅためなり、いわく「主よ、たれか、わ
 39 れらに聞きて信じたるぞ、主のみ腕は、たれに現われたるぞ」と。39 彼らの信じ得ざりしは、イザヤの、また言いことによれり、40 いわく「彼ら目にて見ず、心にて悟らず、翻りてわれにい

やされざらんために、神、彼らの目をくらまし、彼らの心をかたくなにし給えり」と。¹¹ 41 イザヤ
がかく言いしは、彼の光榮を見て、彼につきて語りし時なり。42 しかれども重だちたる人々のうちにも、イエズスを信仰せし者多かりしが、ファリザイ人をはばかり、会堂より追い出だされじとて、これを公言せざりき。^{*} 43 すなわち彼らは神の光榮よりも人の光榮を好みしなり。

最終の勧告 44 イエズス呼ばわりてのたまいけるは、われを信する人は、われを信するにあらずして、われを遣わし給いしものを信するなり。45 またわれを見る人は、われを遣わし給いしものを見るなり。46 われは光として世に来れり、これ、すべてわれを信する人が闇に留まらざらんためなり。47 人もし、わが言葉を聞きて守らざれば、われはこれを裁かず、わが來りしは世を裁かんためにあらずして世を救わんためなればなり。48 われを軽んじてわが言葉を受けざる人には、これを裁くものあり、すなわち、わが語りし言葉そのもの、終わりの日において、これを裁くべし。¹² けだし、われはおのれより語りしにあらず、われを遣わし給いし父自ら、わが言うべきこと、語るべきことを、われに命じ給いしなり、50 われはその命令が永遠の生命たることを知る、さればわが語るは、父のわれにのたまいしままに、これを語るなり、と。

① およそ三十せんに当たる銀貨。② 歓迎の声。助け給えの意。③ エルザレムとその住民とをさす。④ ザカリア9・9
⑤ 原文には魂。マテオ10・39、16・25、マルコ8・35、ルカ9・24、17・33を見よ。⑥ 絶対的ではなく比較的に。⑦
悪魔の意。⑧ ラテン訳では万物。⑨ 詩編109・4、116・2、ヘブレオ書・13・8、コロサイ書1・17 ⑩ イザヤ53・
1、ロマ書10・16 ⑪ 天罰として。イザヤ6・9、10、マテオ13・14、15、マルコ4・12、11、ルカ8・10、使徒行録
28・26、27、ロマ書11・8 ⑫ マルコ16・16

第二編　主イエズス、ご受難、ご死去、ご復活等を もつて、おのが派遣と神性とを証し給う

第一項　イエズス、おのれに関する証言を全うし給う

第一款　過ぎ越しの晩さん

イエズス弟子の足を洗い給う　1 過ぎ越し^{*}の祭日の前、イエズス、おのが時すなわち、この世より父に移るべき時来れるを知り給いて、かねても世にある、おのが「弟子」を愛し給いしが、極までこれを愛し給えり。2さて晩さんの果つるにのぞみ、悪魔すでにイエズスを渡さんことをシモンの子イスカリオテのユダの心に入れしかば、3イエズス、父より、いつさいをおのが手に賜わりたることと、おのが神より出でて神に至ることとを知り給い、4晩さんより立ち上がりて上着を脱ぎ、布切れを取りて腰に帶び、5やがて水を金^{かな}だらいに盛り、弟子たちの足を洗いて、その帶びたる布切れもて、これを拭い始め給えり。6かくてシモン・ペトロに至り給うや、ペトロ、主よ、わが足を洗い給うか、と言ひしに、7イエズス答えて、わがなすことろ、汝、今は知らざれども、のちにはこれを知るべし、とのたまいかれば、8ペトロ言ひけるは、わが足を洗い給うこと決してあるべからず、と。イエズス、われ、もし汝を洗わば、われと一致するところあらじ、と答え給いしかば、9シモン・ペトロ、主よ、わが足のみならず、手をも頭^{こう}

10 をも、と言ひしが、¹⁰ イエズスのたまひけるは、すでに身を洗いたる人は全身清くして、足のほ
11 か洗うを要せず、汝らも清けれど、すべてにはあらず、と。¹¹ けだし、おのれを渡す者の、たれ
なるを知り給いて、汝ら、ことごとく清きにはあらず、とのたまひしなり。

その理由 ¹²さて彼らの足を洗い終わりて上着を取り、また席につきて彼らにのたまひけるは、
13 わが汝らになししことの何たるを知るや。¹³ 汝らは、われを師または主と呼ぶ、その言うことや
14 よし、われはそれなればなり。¹⁴ しかるに主たり師たるわれにして汝らの足を洗いたれば、汝ら
15 もまた、互いに足を洗わざるべからず。¹⁵ けだし、われ汝らに例を示したるは、わが汝らになし
16 しごとく汝らにもなさしめんためなり。¹⁶ 誠に誠に汝らに告ぐ、しもべは、その主よりも大いな
17 らず、使徒は、これを遣わしし者よりも大いならず、² ¹⁷ 汝らこれらのことを見りて、これを行な
わば幸いなるべし。

裏切る者を示し給う ¹⁸ われは汝らのすべてをさして言うにあらず、かつて選みたる人々を知
れり。しかれども聖書に「われとともにパンを食する人、われに向かいてそのくびすをあげたり」³
とあることの成就せんためなり。¹⁹ われ今、事のなるに先立ちて汝らに告ぐるは、そのなりたら
20 ん時、汝らをして、わがそれなることを信せしめんためなり。²⁰ 誠に誠に汝らに告ぐ、わが遣わ
す者を受くる人は、われを受け、われを受くる人は、われを遣わし給いしものを受くるなり、と。⁴
21 イエズスこれをのたまひ終わりてみ心騒ぎ、証明して、誠に誠に汝らに告ぐ、汝らのうち一人
われを渡さんとす、とのたまひければ、²² 弟子たち、たれをさしてのたまえるぞといふかりて、⁵
互いに顔を見合わせたりしが、²³ イエズスの愛し給える一人の弟子、御懐おんふところのあたりに寄りかかりい

たるに、24 シモン・ペトロ、あごもて示しつつ、のたまえるはたれのことぞ、と言ひければ、25
 彼、御胸に寄りかかりて、主よ、たれなるか、と言ひしかば、26 イエズス答えてのたまいけるは、
 わが、パンを浸して与うる者、すなわちそれなり、と。かくてパンを浸して、シモンの子イスカ
 リオテのユダに与え給いしに、27 この一切れを取るやサタン*彼に入れり。さてイエズスこれに向
 かいて、そのなすところを速かになせ、とのたまいしかど、28 食卓につけるものは、一人として
 何のためにこれをのたまいしかを知らず、29 中にはユダが金袋を持てるによりて、祭日のために、
 われらが要するものを買え、あるいは貧者に何をか施せとイエズスののたまえるならん、と思う
 人々もありき。30 ユダは、かの一切れを受くるや、ただちに出で行きしが、時はすでに夜なりき。

第二款 食堂における談話

イエズスの光榮近し 31 ユダが出でしのちイエズスのたまいけるは、今や人の子、光榮を得、
 神も彼において光榮を得給えり。32 神、彼において光榮を得給いたれば、神また、おのれにおいて
 光榮を彼に得させ、しかもただちに得させ給うべし。

相愛のこと 33 小子よ、われは、なおしばらく汝らとともにあり、汝ら、まさにわれを尋ねべ
 けれども、かつてユデア人に向かいて、わが行く所には汝ら来るあたわづと言ひしごとく、今は
 汝らにもまた、しか言う。34 われは新しき撻を汝らに与う、すなわち汝ら相愛すべし、わが汝ら
 を愛せしごとく汝らも相愛すべし、35 汝ら相愛せば、人々なこれによりて汝らのわが弟子たるこ

とを認めん、と。

ペトロの否みの予言 36 シモン・ペトロ、主よ、いざとに行き給うぞ、と言ひしに、イエズス

37 答え給いけるは、わが行く所に汝今は従うあたわす、のちには従わん、と。37 ペトロまた、われ
38 今は汝に従うあたわざるは何ぞや、われは汝のために生命^{いのち}をも捨てんとする、と言ひしかば、38 イ
エズスこれに答え給いけるは、汝は、わがために生命^{いのち}をも捨てんとするか、誠に誠に汝に告ぐ、
汝が三たび、われを否むまでは鶴歌^{にわとり}わざるべし。

①原文には、われと配分を得まじ。②マテオ10・24、ルカ6・40、本書15・20 ③親友の形容。④けることを言う。
⑤詩編41(ラテン訳では40)・10 ⑥すなわちキリスト。⑦マテオ10・40、ルカ10・16 ⑧本書7・36 ⑨原文には魂。⑩マテオ26・35、マルコ14・29、ルカ22・33

第十四章

イエズスの至り給う所とその道 1

汝らの心騒ぐべからず、神を信すれば、われをも
信せよ。2 わが父の家に住み所多し、しからずば、われすでに汝らに告げしならん、そは至りて
汝らのために所を備えんとすればなり。3 至りて汝らのために所を備えたるのち、再び来りて汝
らを携え、わがおる所に汝らをもおらしめん。4 汝らは、わが行く所を知り、またその道をも知
れり、と。5 トマ言ひけるは、主よ、われらはその行き給う所を知らず、いかでかその道を知る
ことを得ん、と。6 イエズスこれにのたまひけるは、われは道なり、真理なり、生命なり、われ
によらずしては父に至る者はあらず。

7 父はイエズスにおいて見え給う 7 汝ら、もしわれを知りたらば、必ずわが父をも知りたらん、
8 今より汝らこれを知らん、しかも、すでにこれを見たり、と。8 フィリッポこれに向かい、主よ、
9 父をわれらに示し給え、さらばわれら事足るべし、と言えるを、9 イエズスのたまひけるは、わ

れ、かくも久しく汝らとともにおれるに汝らなおわれを知らざるか、フイリッポよ、われを見る人は父をも見るなり、何ぞ父をわれらに示せと言うや。10 われ父により、父われにいます、とは汝ら信せざるか、わが汝らに語る言葉は、おのれより語るにあらず、父こそわれにましまして自ら業をなし給うなれ。

10

12-11
信者に対する約束 11 汝らはわが父により、父われにいますと信せざるか、12 しかば業そのもののために信せよ。誠に誠に汝らに告ぐ、われを信ずる人は自らまた、わがなす業をもなし、しかもこれより大いなるものをなさん、そはわれ父に行けばなり。13 汝らが、わが名によりて（父に）求むるところは、何ごともわれこれをなさん¹、これ父が子において光榮を帰せられ給わんためなり。14 汝ら、わが名によりて何をかれに求めば、われこれをなさん。

13

聖靈派遣の約束 15 汝ら、もしわれを愛せば、わが命²を守れ、16 しかして、われは父にこい、父は他の弁護者³を汝らに賜いて永遠に汝らとともに留まらしめ給わん。17 これすなわち真理の靈にして、世はこれを見ず、かつ知らざるによりて、これを受くるあたわづ、しかれども汝らは、これを知らん、そは汝らとともに留まりて汝らのうちに居給うべければなり。

19-18

イエズス、弟子を離れ給わず 18 われ汝らを孤児として残さじ、まさに汝らに来らんとす。19 今しばしにして世はもはやわれを見ざるべし、されど汝らはわれを見る、そはわれは生きおりて汝らもまた生くべければなり。20 汝らかの日に、われわが父により、汝らわれにより、われ汝らにおることを悟らん。21 わが命令を有してこれを守る者は、これわれを愛する者なり、われを愛する者は、わが父に愛せらるべく、われもこれを愛して、これにおのれを表わすべし、と。22 か

22

21

20

17 16-15 14

のイスカリオテにあらざるユダ、イエズスに言ひけるは、主よ、何すれぞ、おのれをわれらに表わして世に表わし給わざるや。23 イエズス答えてのたまひけるは、人もしわれを愛せば、わが言葉を守らん、かくてわが父は彼を愛し給い、われら彼に至りて、その内に住まん、24 われを愛せざる者は、わが言葉を守らず、しかして汝らの聞きしは、わが言葉にあらずして、われを遣わし給いし父のなり。25 われなお汝らとともにおりて、これらのことを汝らに語りしが、26 父のわが名によりて遣わし給うべき弁護者たる聖靈は、わが汝らに言ひし、すべてのことを教え、かつ思い出でしめ給うべし、27 われは平安を汝らに残し、わが平安を汝らに与う、わがこれを与うるは世の与うることくにはあらず、汝らの心騒ぐべからず、また恐るべからず、28 かつて、われ行きてまた汝らに来らんと言ひしは汝らが聞けるところなり、汝ら、われを愛するならば必ずわが父のもとに帰るを喜ぶならん、父はわれより更に大いにましませばなり。29 今、事のなるに先立て、わが汝らに告げたるは、そのなりてのち汝らに信せしめんためなり。30 もはや多く汝らに語らじ、けだしこの世の頭来る、^{かしら}₄彼はわれに何の権をも有せず、31 されど、わが父を愛して父のわれに命じ給いしごとく行なうことを世の知らんために、立て、いざことより去らん。

① マテオ7・7、21・22、マルコ11・24、本書16・23 ② 聖靈を言う。ヨハネ一書2・1を見よ。③ 聖靈を賜わる日。④ 悪魔を言う。

2-1

第二章

ぶどうの木とその枝 1 われは眞のぶどうの木にして、わが父は栽培者なり、2 われにある枝の実を結ばざる者は、父ことごとくこれを切り去り、実を結ぶ者は、なお多く実を結ばしめんために、ことごとくこれを切りすかし給うべし。3 わが汝らに語りたる言葉によりて汝らはすでに清きなり。4 われに留まれ、われもまた汝らに留まるべし。枝がぶどうの木に留まるにあらずば自ら実を結ぶことあたわざることく、汝らもわれに留まるにあらずばあたわじ。5 われはぶどうの木にして汝らは枝なり、われに留まり、わがこれに留まる人、これ多くの実を結ぶ者なり、けだし、われを離れては汝ら何ごとをもなすあたわず。6 人もしわれに留まらずば、枝のごとく捨てられて枯れ、さて拾われ火に投げ入れられて焼けん。7 汝ら、もしわれに留まり、わが言葉汝らに留まらば、欲するところを願わんにかなえらるべし。8 わが父のよりもつて光栄を得給うは、汝らが、おびただしき実を結びてわが弟子とならんこと、これなり。9 父のわれを愛し給えるごとく、われもまた汝らを愛せり、汝ら、わが愛に留まれ。10 もし、わが命を守らば汝らわが愛に留まること、われもわが父の命を守りて、その愛に留まるがごとくなるべし。11 これらのことを汝らに語れるは、わが喜び汝らのうちにありて汝らが喜びの全うせられんためなり。
 相愛の命 12 汝ら相愛すること、わが汝らを愛せしがごとくせよ、これわが命なり。13 たれもその友のために生命を捨つるより大いなる愛を持てる者はあらず。14 汝ら、もしわが命ずることを行なわば、これわが友なり。15 われ、もはや汝らをしもべと呼ばじ、しもべはその主のなすところを知らざればなり。さてわれは汝らを友と呼べり、これ、すべてわが父より聞きしことを、ことごとく汝らに知らせたればなり。16 汝らがわれを選みたるにあらず、われこそ汝らを選みて

立てるなれ、これ汝らが行きて実を結び、その実長く存して、わが名によりて父に何ごとを願うも、父が汝らにこれを賜わんためなり。17 わがかく汝らに命ずるは汝らが相愛せんためなり。
 世の憎み 18 世もし汝らを憎まば、汝らより先にわれを憎めりと知れ。19 汝ら世のものなりしならば、世はおのがものとして愛せしならん、されども世のものにあらずして、わが世より選み出だせる汝らなれば、世は汝らを憎むなり。20 しもべはその主より大いならず、と、わがかつて汝らに語りしを記憶せよ、人われを迫害したれば、また汝らをも迫害せん、わが言葉を守りたれば、21 また汝らの言葉をも守らん、21 しかれども、このすべてのことは、彼らわが名のためにこれを汝らになさん、これ、われを遣わし給いしものを知らざるゆえなり。22 もしわが來りて彼らに告ぐることなかりせば、彼ら罪なかりしならん、されど今は、その罪をかこつくるにところなし。23 われを憎む人は、わが父をも憎むなり、24 もしわれ彼らのうちにありて、何人もかつてなきざりし業を行なわざりせば彼ら罪なかりしならん、されど今は現に、これを目のあたりに見て、しかも、われとわが父とを憎みたるなり。25 ただし、これ彼らの律法^{*}に書きしるして「彼ら、いわれなくわれを憎めり」とある言葉の成就せんためなり。26 かくて父のもとよりわが遣わさんとする弁護者、すなわち父より出する真理の靈来らば、われにつきて証明をなし給わん、27 汝らも初めよりわれに伴えるによりてまた証明をなさん。

① 原文には魂。② マテオ10・24、ルカ6・40、本書13・16 ③ 詩編 35・69-14

3 2-1
 結論
 1 わがかく汝らに語りしは汝らのつまずかざらんためなり。2 人々汝らを会堂より追い出ださん、しかも汝らを殺す人すべて自ら神につくすと思う時来たらん。3 人のかかることを

4 汝らになさんとするは、父をもわれをも知らざるゆえなり。4 ただし、わがかく汝らに語りたる
は、時至らば汝らをして、わがこれを告げたるを思い出でしめんがためなり。

5 聖靈の働き 5 しかも、これを初めより告げざりしは汝らとともにおりしゆえなり、今われを
遣わし給いしものに至らんとするに、いざこに至るぞとわれに問う者、汝らのうちに一人もあら
ず、6 されど、かく語りしによりて、憂い汝らの心に満てり。7 さりながら、われ實じつをもって汝
らに告ぐ、わが去るは汝らに利あり、われもし去らずば弁護者1は汝らに来るまじきを、去りなば、
われこれを汝らに遣わすべければなり。

世に対して 8 彼来らば世を責めて罪と義と審判とにつきて、そのあやまちを認めしめん。9
9-8 罪につきてとは、人々われを信せざりしゆえなり。10 義につきてとは、われ父のもとに去りて汝
らもはやわれを見ざるべきゆえなり。11 審判につきてとは、この世の頭かしら²、すでに審判せられたる
ゆえなり。

弟子たちに対して 12 わが汝らに言うべきこと、なお多けれども、汝ら今はこれに得堪えず。
13 13 かの真理の靈來らん時、いつさいの真理を汝らに教え給わん。そは、おのれより語るにあらず
して、ことごとくその聞きたらんところを語り、また起こるべきことを汝らに告げ給うべければ
なり。14 彼はわれに光榮あらしむべし、そはわがものを受け取りて汝らに示し給うべければなり。
15 15 すべて父の有し給うものは、ことごとくわがものなり、彼はわがものを受け取りて汝らに示し
給わんと言えるは、これをもつてなり。

16 今の悲しみ、喜びとなるべし 16 しばらくにして汝もはやわれを見ざるべく、またしばらく

にしてわれを見ん、これわが父に至ればなり、「とのたまえり」。¹⁷ここにおいて弟子のある人々、
 しばらくにして汝らわれを見ざるべく、またしばらくにしてわれを見ん、また、わが父に至れば
 なり、とのたまえるは何ごとぞ、と語り合いつつ、¹⁸さて、しばらくにしてとのたまえるは何ぞ
 や、われらはその語り給うところを知らず、と言いおりしに、¹⁹イエズス、彼らがおのれに問わ
 んと欲するを悟りてのたまいけるは、汝らは、しばらくにして汝らわれを見ざるべく、またしば
 らくにしてわれを見ん、と、わが言えるを詮議し合えるか、²⁰誠に誠に汝らに告ぐ、汝らは悲し
 み、かつ泣かんに、世は喜ぶべく、汝ら憂うべけれども、その憂いは変わりて喜びとなるべし。
²¹女の生まんとするや、わが時期来れりとて憂うれども、すでに子を生み終われば、世に人一人
 生まれたる喜びによりて、もはや苦痛を覚ゆることなし。²²汝らも今は憂いをいだけども、われ
 再び汝らを見ば汝らの心は喜ぶべく、しかもその喜びを汝らより奪う者なかるべし。²³かの日に
 は汝ら何ごともわれに問わざらん。誠に誠に汝らに告ぐ、汝らもし、わが名によりて父に求む
 るところあらば父はこれを汝らに賜うべし。²⁴汝ら今まで、わが名によりて何をも求めざりし
 が、求めよ、さらば受け得て汝らの喜び全かるべし。

結末 ²⁵われたとえをもつて、かく汝らに語りしかど、もはや、とえをもつて語らずして明か
 らさまに父につきて汝らに告ぐべき時は来る、²⁶その日には汝らわが名によりて求めん、しかも
 われ汝らのために父に祈らんとは言わず、²⁷そは汝ら、われを愛して、わが神より出でたるを信
 じたるがゆえに、父自ら汝らを愛し給えばなり。²⁸われは父より出でて世に來りしが、また世を
 離れて父に至る、とのたまいしかば、²⁹弟子たち言ひけるは、今は明からさまに語り給いて少し

も、とえを語り給わず。

弟子たち信仰を發表す 30 今にしてわれらは、汝が万事を知り給いて人の問うを待ち給わざることを知り、これによりて汝の神より出で給えることを信す、と。

卑怯ひきょうを予言せらる 31 イエズス彼らに答え給いけるは、汝らは今信するか、32 見よ、時は来る、もはや来れり、汝らは、いすれもおのがじし散り乱れて、われを一人捨ておくに至らん。されどわれは一人にあらず、そは父われとともにいませばなり。33 かく汝らに語りたるは、汝らが、われにおいて平安を得んためなり。世においては汝ら悩みに会わん、されどたのもしかれ、われは世に勝てり、と。

①聖靈。②惡魔の意。本書12・31、14・30

第四款 イエズスの司祭的祈禱

おのがための祈り 1 イエズスかく語りはてて目をあげ、天を仰きてのたまひけるは、
 父よ、時來れり、御子をして汝に光榮あらしめんために御子に光榮あらしめ給え、2 そは父より
 賜わりし人々に永遠の生命を与えしめんとて、これに万民の上に権能を賜いたればなり。3 そも
 そも永遠の生命は、唯一ゆいだいの誠の神にてまします汝と、その遣わし給えるイエズス・キリストとを
 知るにあり。4 われは地上にて汝に光榮あらしめ、われになさしめんとて賜いし業きぎょうを全うせり。
 5 父よ、世界の存在に先立ちて、わが汝とともに有せし光榮をもつて、今汝とともに、われに光

榮あらしめ給え。

6 使徒たちのための祈り 6 われは、この世より選みて、われに賜いし人々にみ名を表わせり。
 7 彼ら汝のものたりしに、これをわれに賜い、彼らは汝の言葉を守り、7 われに賜いしこと、こと
 8 ごとく汝より出することを今にして悟れり。8 けだし、われに賜いし言葉を、われ彼らに授け、
 彼らはこれを受けて、深くわが汝より出でたるを悟り、汝のわれを遣わし給いしことを信ぜり。
 9 9 われ彼らのために祈る。わが祈るは世のためにあらずして、われに賜いたる人々のためなり、
 10 彼らは汝のものなればなり。10 わがものは、ことごとく汝のもの、汝のものはわがものにして、
 11 われ彼らのうちに光榮を得たり。11 われ、もはや世におらず、彼らは世におり、われは汝に至る。
 聖なる父よ、われに賜いたる人々を、み名をもつて守り給え、これ、われらのごとく彼らも一な
 12 らんためなり。12 われ彼らとともにし間、み名をもつて彼らを守りいたりしが、われに賜いた
 る人々を保ち、そのうちの一人も失せず、ただ聖書の成就せんために、滅びの子の失せたるのみ。
 13 今は、われ汝に至る、世にありて、かく語るは、わが喜びを彼らの身に円満ならしめんがため
 なり。14 われは御言葉を彼らに授け、世は彼らを憎めり、こは、われも世のものにあらざること
 15 く彼らは世のものにあらざればなり。15 わが祈るは彼らを世より取り去り給えとにはあらず、彼
 らを守りて悪をのがれしめ給えとなり。16 われも世のものにあらざることく彼らは世のものにあ
 らず、17 願わくは彼らを真理のうちに聖ならしめ給え、御言葉はすなわち真理なり。18 われを世
 に遣わし給いしごとく、われも彼らを世に遣わせり、19 かつ彼らをも真理のうちに聖ならしめん
 として彼らのために、おのれを聖ならしむ。

聖会のための祈り 20 わが祈るは彼らのためのみならず、また彼らの言葉によりて、われを信する人々のためにして、³ 21 彼らがことごとく一ならんためなり。父よ、これ汝のわれにいまし、わが汝におるがごとく、彼らもわれらにおりて一ならんためにして、汝のわれを遣わし給いしことを世に信せしめんとてなり。 22 われに賜いし光榮を、われ彼らに与えたり、こは、われらの一なるがごとく彼らも一ならんためなり。 23 われ彼らにおり、汝われにいます、こは彼らが一に全うせられんため、また汝のわれを遣わし給いしこと、われを愛し給いしことく彼らをも愛し給いしことを、世の悟らんためなり。 24 父よ、願わくは、われに賜いし人々も、わがおる所にわれとともにならんことを、これ世界開闢以前よりわれを愛し給いて、われに賜いたるわが光榮を、彼らに見せんためなり。

結末 25 正しき父よ、世は汝を知らざれども、われは汝を知り、彼らもまた汝のわれを遣わし給いしことを知れり。 26 われはみ名を彼らに知らせたり、また知らせんとす、これ、われを愛し給いたる愛の彼らに存して、われも彼らにおらんためなり、「とのたまえり」。

① マテオ 28・18 ② 詩編 108・8、本書 18・9 ③ ラテン訳では信すべき。

第二項 イエズスのご死去およびご復活

第一款 イエズスのご受難

第十八章

イエズス、ゲッセマニに至り給う（マテオ26・32、ルカ22・39） 1 イエズス、かくのたまいて

弟子たちとともにセドロンの谷川¹のかなたに出で給いしが、そこに園のありけるに、弟子たちを伴いて入り給えり。 2 イエズス、しばしば弟子とともにここに集まり給いければ、彼を売れるユダも所を知りいたり。

3 御身を渡し給う（マテオ26・43、ルカ22・52、マルコ14・47） * 3 さればユダは、一隊の兵卒および下役^{したやく}どもを大司

4 祭、ファリザイ人より受けて、ちようちんと松明^{たいまつ}と武器とを持ちて、ここに来れり。 4 イエズスわが身に来るべきことをことごとく知り給いて、進み出でて彼らに向かい、たれを尋ねるぞ、とのたまいしかば、彼ら、ナザレトのイエズスを、と答えしに、 5 イエズス、そはわれなり、とのたまいしが、彼を渡せるユダも彼らとともに立ちいたり。 6 さてイエズスが、われなり、とのたもうや、彼ら、あとずさりして地に倒れたり。 7 イエズスすなわちまた、汝ら、たれを尋ねるぞ、と問い給いしに、彼ら、ナザレトのイエズスを、と言いたれば、 8 イエズス答え給いけるは、われすでに、われなりと汝らに告げたり、われを尋ねるならば、この人々を許して去らしめよ、と。 9 これかつて、われに賜いたる人々を、われ一人も失わざりき、とのたまいし御言葉^{じょうごくわ}の成就せんためなり。

10 ペトロ、人の耳を切る（マテオ26・51、ルカ22・52、マルコ14・47、マルコ22・50、マルコ51） 10 時にシモン・ペトロ、剣^{つるぎ}を持ちたりしかば、

抜きて大司祭のしもべを撃ち、その右の耳を切り落としが、そのしもべの名をマルクスと言えり。 11 さてイエズス、ペトロにのたまひけるは、汝の剣をさやに收めよ、父のわれに賜いたる杯^{さかづき}³は、われこれを飲まざらんや、と。

イエズス、アンナおよびカイファのもとに引かれ給う 12 かくて、兵隊、千夫長およびユデア人の下役したやくども、イエズスを捕えてこれを縛り、13 まずアンナのもとに引き行けり、これ、その年の大司祭たるカイファの舅しゆうとなるがゆえなり。14 カイファは、かつてユデア人に向かいて、一人が人民のために死するは利なり、との忠告を与えたりし人なり。

ペトロ、イエズスを否む (マテオ 26・66、67、ルカ 22・69、マルコ 14・55、57) 15 しかるにシモン・ペトロおよび他の一人の弟子、イエズスのあとに従いたりしが、かの弟子はかつて大司祭に知られたりければ、イエズスとともに大司祭の庭に入りしも、16 ペトロは門の外に立ちてありしに、かの大司祭に知られたりし弟子出でて門番の女に語らいしかば、ペトロは門内に入れたり。17 かくて門番の女ペトロに向かい、汝もかの人の弟子の一人ならずや、と言ひしに、彼、しからずと言えり。18 時しも寒かりければ、しもべおよび下役ども、炭火��火のそばに立ちてあたりおるに、ペトロも立ちまじりてあたりたり。

大司祭の尋問 (マルコ 14:26・63、57、64:66) 19 さて大司祭は、その弟子と教えとにつきてイエズスに問い合わせ、20 しかば、21 イエズスこれに答え給いけるは、われは明からさまに世に語り、いつも、すべてのユデア人の相集まる会堂および〔神〕殿にて教へ、何ごともひそかに語りしことなし、22 汝、何ぞわれに問うや、わが語りしころを聽聞きようもんしたる人々に問え、彼らこそ、わが言いしころを知るなれ、と。22 かくのたまししかば、立ち会える一人の下役したやく、手にてイエズスの頬ほおを打ち、汝、大司祭に答うるに、かくのごときか、と言ひしを、23 イエズス答え給いけるは、わが言いしこと悪しくば、その悪しきゆえんを証せよ、もし良くば、何すれぞわれを打つや、と。24 かくてアンナ

は、イエズスを縛りたるままに大司祭カイファのもとに送りたりき。

ペトロまたイエズスを否む（マテオ²⁶・⁶⁹₇₂、ルカ²²・⁷¹₇₅、マルコ¹⁴・⁵⁸₆₂）²⁵さてシモン・ペトロ、火にあたりつ立てるに、人々、汝も彼が弟子の一人ならずや、と言いしかば、ペトロ否みて、しからず、と言えり。²⁶また一人、大司祭のしもべにしてペトロに耳を切り落とされし人の親族なる者、われ汝が園にて彼に伴えるを見たるにあらずや、と言うを、²⁷ペトロまた否みたるに、²⁸鶏たちまち歌えり。イエズス、ピラトに渡され給う（マテオ²⁷・¹、ルカ²³・²、マルコ¹⁵・¹）²⁸かくて人々、イエズスをカイファのもとより官厅に引きしが、時は夜明けなりき。彼らは汚れずして過ぎ越しの犠牲^{いけだえ}を食し得んために、²⁹その身は官厅に入らざりしかば、²⁹ピラト、彼らのおる所に出でて、汝らかの人に対して、いかなることを告訴するぞ、と言いしに、³⁰彼ら答えて、彼もし悪人ならずばわれらこれを汝に渡さざりしならん、と言ひければ、³¹ピラト彼らに向かい、汝らこれを引き受けて汝らが律法^{*}のままに裁け、と言いしに、ユデア人、われらは人を殺すことを許されず、と言えり。³²これイエズスがかつていかなる死にざまをもつて死すべきかを示してのたまいし御言葉⁶の成就せんためなりき。ピラトの尋問（マテオ²⁷・¹¹₁₄、マルコ¹⁵・²₅、ルカ²³・²₅）³³ここにおいてピラト、再び官厅に入りイエズスを呼び出だして、汝はユデア人の王なるか、と言いしに、³⁴イエズス答え給いけるは、汝これをおのれより言えるか、また人われにつきて汝に告げたるか。³⁵ピラト答えるは、われ、あにユデア人ならんや、汝の国民と大司祭らと汝をわれに渡したるが、汝何をなしたるぞ。³⁶イエズス答えるは、わが國はこの世のものにあらず、もしわが國この世のものならば、われをユデア人に渡されじとて、わが臣僕^{しんぱく}は必ず戦うならん、されど今わが國はこのものならず、と。³⁷かく

て。ピラト、イエズスに向かい、しかば汝は王なるか、と言ひしに、イエズス答えたまいけるは、汝の言える「がごとし」、われは王なり、われこれがために生まれ、これがために世に来れり。すなわち真理に証明を与へんためなり、すべて真理によれる人はわが声を聞く、と。³⁸ピラト、イエズスに言ひけるは、真理とは何ぞや、と。

イエズスとバラバ（マテオ²⁷・¹⁵、ルカ²³・¹³、マルコ¹⁵）

かく言ひて再びユデア人の所に出で行き、彼らに言ひけるは、われかの人に何の罪をも見出ださず、³⁹ただし過ぎ越しの祭にあたりて、われ汝らに一人を許すは汝らの慣例なるが、しかばユデア人の王をわれより許されることを欲するか、と。⁴⁰ここにおいて彼らまた一同に叫びて、その人ならでバラバを、と言えり、バラバは、すなわち強盜なりき。

①サムエル下15・23 ②本書17・12 ③苦難の形容。④本書11・50 ⑤本書の記者。⑥すなわち異邦人の手に渡されるはずのこと。マテオ20・19、マルコ10・33、ルカ18・32 ⑦原文には、わが王たることを汝は言えり。あるいは、汝、言えり、われは王なり。

打擲と茨の冠（マテオ²⁷・¹⁹、ルカ²³・²⁴、マルコ²⁵・¹⁵）

1 その時ピラト、イエズスを捕えてこれをむち打ち、2 兵卒らは茨の冠を編みて御頭にかむらせ、また赤き上着を着せ、3さて御前に至りて、ユデア人の王よ、安かれ、と書いて、手をもつて御頬を打ちいたり。

4 見よ人を 4 かくてピラトまた出で來り、人々に向かひて言ひけるは、わが何の罪をも彼に見出ださざることを汝らに知らしめんために、見よ、彼を汝らの前に引き出だすぞ、と。5 ここにおいてイエズス、茨の冠、赤き上着にて出で來り給いしかば、ピラト、見よ人を、と言ひしに、⁶

大司祭および下役どもイエズスを見るや叫び出でて、十字架につけよ、十字架につけよ、と言ひければ、ピラト、汝ら自らこれを取りて十字架につけよ、われは何の罪をもこれに見出ださざる⁷を、と言ひしに、⁷ユデア人答へけるは、われらに律法^{*}あり、その律法によりて彼は死せざるべからず、そは、おのれを神の子としたればなり、と。

第二の尋問 ⁸ピラトこの言葉を聞きて、ますます恐れ、⁹また官庁に入りてイエズスに向かい、汝はいづこの者ぞ、と言ひしかど、イエズス答へ給わざれば、¹⁰ピラト言ひけるは、汝われに、もの言わざるか、汝を十字架につくるの權も、また許すの權も、われにあることを知らざるか、と。¹¹イエズス答へ給いけるは、汝、上より与えられたるにあらずば、われに対して何らの權あらんや。われを汝に渡したる者の罪、ここにおいてか更に大いなり、と。

イエズス、死罪に渡され給う ¹²これより、ピラトまたイエズスを許さんと計りいたれども、ユデア人叫びて、汝もし、この人を許さばセザルの忠友³にあらず、すべておのれを王とする人はセザルにそむく者なればなり、と言ひければ、¹³ピラトかかる言葉を聞きてイエズスを連れ出だし、切りばめの敷石、ヘブレオ語にてはガバタと言える所にて審判席につけり。¹⁴あたかも過ぎ越しの祭の用意日にして、十二時⁵ごろなりしが、ピラト、ユデア人に向かい、見よ、汝らの王を、¹⁵と言ひしに、¹⁵彼ら、取りのけよ、取りのけよ、十字架につけよ、と叫びいければ、ピラト彼らに、われ、あに汝らの王を十字架につけんや、と言えるを、大司祭ら、セザルのほか、われらに王なし、と答へたり。

十字架の道行き(マテオ²⁷、ルカ²³、マルコ¹⁵)

16 かくてピラト、十字架につくるためにイエズス

16

20 テオ²⁷
22 ルカ²³
26 マルコ¹⁵

16

17 を彼らに渡しければ、兵卒らこれを取りて引き出だしづが、17 イエズス自ら十字架を負い、かの
18 されこうべ⁶、ヘブレオ語にてゴルゴタと言える所に出で給えり。

19 十字架につけられ給う（マテオ²⁷、マルコ²⁷、³⁵、³⁸、マルコ²³、³³） 18 彼らここにて、これを十字架につけ、ま
た別に二人を左右に、イエズスをば真中にして、はりつけたり。19 しかるにピラト、また罪札を書
きて十字架の上に置きしが、ユデア人の王、ナザレトのイエズスとするされたりき。20 イエズス
の十字架につけられ給いし所は町に近くして、罪札はヘブレオとギリシアとラテンとの言葉にて
書きたれば、ユデア人のうちに、これを読みたる者多し。21 さればユデア人の大司祭らピラトに
向かい、ユデア人の王と書かずして、ユデア人の王と自称^{じしよう}せし者と書き給え、と言いしを、ピラ
トは、22 わが書きしところは書きし「ままなれ」⁸、と答えたり。

23 衣服の分配（マテオ²⁷、マルコ²³、³⁵、マルコ²⁴、³⁴） 23 かくて兵卒ら、イエズスを十字架につけしのち、その衣
服と下着とを受け、衣服は四分して一人に一分ずつ分かれしが、下着は上より一つに織りたる縫
い目なきものなりしかば、24 これを裂かずして、たれのになるべきかくじ引きにせんと言ひ合え
り。これ聖書に書きしるして「彼らは互に、わが衣服を分かれ、わが下着をくじ引きにせり」
とあることの成就^{じょうじゅ}せんためにして、すなわち兵卒らは、實にこのことをなせるなり。

25 聖母をヨハネにゆだね給う 25 さてイエズスの十字架のかたわらに、その母と母の姉妹、すな
26 わちクレオファの「妻」マリアと、マグダレナ・マリアと立ちてありしが、26 イエズスその母と
27 愛せる弟子との立てるを見給いて、母に向かい、婦人よ、これ汝の子なり、とのたまい、27 次に
弟子に向かいて、これ汝の母なり、とのたまいければ、この時より、その弟子、イエズスの母を、

わが家に引き取りたり。

**イエズス、息絶え給う（マテオ 15・34
ルカ 27・37、マルコ 50・46
10）**

28 やがてイエズス、何ごとも成り終われる
29 を知り給いて、聖書の成就しはてんために、われかわく、とのたまいしが、29 そこに酢の満ちた
30 器置かれてありしに、兵卒ら海綿を酢に浸し、イソップにさして、その口にさしつけしかば、30
イエズス酢を受け給いて、成り終われり、とのたまい、頭こうべをたれて息絶え給えり。

イエズスの脇腹、突き通さる 31 時は用意日にて大安息日の前なれば、安息日に屍の十字架上
32 に残らざらんために、その脛はぎを折りて取りおろさんことを、ユデア人、ピラトに願いしかば、32
33 兵卒ら來りて、先なる者およびともに十字架につけられたる他の一人の脛はぎを折りしが、33 イエズ
34 スに至り、そのすでに死し給えるを見て脛はぎを折らざりき。34 されど兵卒の一人、槍もてその脇を
35 開きしかば、ただちに血と水と流れ出でたり。35 目撃せし人これを証明せしが、その証明は真実
36 にして、彼は、その言うところの真実なるを知れり、これ汝らにも信せしめんためなり。36 これ
らのことのなりしは、聖書に「汝ら、その骨を一つも折るべからず12」とあることの成就せんため
なり。37 更にまた聖書にいわく「彼らは、その貫けるものを仰ぎ見13」と。

**十字架よりおろされ葬られ給う（マテオ 27・42
ルカ 57・57、マルコ 61・23、マルコ 15）** 38 そののちアリマテアのヨゼフ、
ユデア人をばばかりて、ひそかにはすれどもイエズスの弟子なれば、その御屍しきを引き取らんこと
39 をピラトに願いしに、ピラト許しかば、來りてイエズスの御屍を取りおろせり。39 また先に、
40 夜、イエズスに至りしニコデモも、没薬もくやくと蘆薈ろくさいとの合わせ物を百斤ばかり携えて來りしが、40 両
人イエズスの御屍を受け取り、ユデア人の葬りの習慣なまつに従いて香料とともに布にてこれを巻けり。

⁴¹ さてイエズスの十字架につけられ給いし所に園そありて、園のうちに、いまだれをも葬らざる
⁴² 墓ありければ、⁴²彼らはユデア人の用意日なるにより、墓の手近きにまかせてイエズスをそこに
 収めたり。

① ロマ書13・1 ② あるいは、これによりて。③ ロマ皇帝。④ 金曜日。⑤ 原文には六時。⑥ ラテン訳ではカルヴァ
 リオ。⑦ 市街より。ヘブレオ書13・13 ⑧ 原文には、わが書きしころは書きしなり。⑨ 詩編21・19 ⑩ 詩編68
 • 22、21・16 ⑪ あるいは墓（くき）。長き草の名。⑫ 出エジプト記12・46、民数紀略9・12 ⑬ ザカリア12・10

第二款 イエズスのご復活および出現

墓におけるマグダレナおよびペトロとヨハネ（マテオ28・1、マルコ16・1、ルカ24・1、¹ ²） 1週の第一日じつ、
 1 マグダレナ・マリア、朝まだきに墓に行き、墓より石の取りのけられたるを見しかば、2走りて
 2 シモン・ペトロおよびイエズスの愛しい給いし今一人の弟子のもとに至り、主を墓より取り去り
 3 たる人あり、いざこに置きたるか、われらはこれを知らず、と言ひければ、3ペトロと、かの一
 4 人の弟子出でて墓に行けり。4二人ともに走りおりしが、かの一人の弟子、ペトロに走り勝ちて、
 5 まず墓につき、5身をかがめて布の横たわれるを見しも、いまだ内に入らざるほどに、6シモン
 6-5 7・ペトロあとより來り、墓に入りて見れば布は横たわりて、7頭こうべをおおいたりし汗拭きは、布と
 8 ともに置かれずして、巻きて別の所にありき。8その時、まず墓につきしかの一人の弟子も内に
 9 入り、見て信じたり。9そは彼らいまだイエズスが死者のうちより復活し給うべしとの聖書を知
 10 らざりければなり。¹10かくて二人の弟子は、おのが家に歸れり。

マグダレナに現われ給う（マルコ⁹・¹¹）¹¹されどマリアは墓の外に立ちて泣きおりしが、泣きつ

¹⁶

¹¹

つ身をかがめて墓のぞきしに、¹²白衣^{ひやくえ}を着たる二つの天使、イエズスの御屍^{しゃばね}の置かれたりし所に、一つは頭の方に、一つは足の方に坐せるを見たり。¹³彼らマリアに向かい、女よ、何ゆえに泣くぞ、と言いしかば、マリア言いけるは、わが主を取り去りたる人ありて、いざこに置きたるか、われこれを知らざるゆえなり、と。¹⁴かく言い終わりて、うしろを振り返りしに、イエズスの立ち給えるを見たり。されど、そのイエズスなることを知らざりしが、¹⁵イエズスこれに、女よ、何ゆえに泣くぞ、たれを尋ぬるぞ、とのたまいしかば、マリア園丁^{えんてい}ならんと思ひて、これに言ひけるは、君よ、もし汝が彼を取り去りしならば、その置きたる所をわれに告げよ、われこれを引き取るべし、と。¹⁶イエズス、マリアよ、とのたまいかれば、彼、振り返りて、ラボニ²、するなわち師よ、と言えり。¹⁷イエズスこれに向かい、われ、いまだわが父に昇らざれば、われに触ることなかれ、ただし、まずわが兄弟らに至りて、われは汝らの父なるわが父、汝らの神なるわが神に昇ると言え、とのたまいかれば、¹⁸マグダレナ・マリア行きて、われ主を見たり、われに、しかじかのたまえり、と弟子たちに告げたり。

トマの不在に使徒たちに現われ給う（マルコ²⁴・³¹）¹⁹

¹⁶

¹⁴

すでに暮れて、弟子たちユデア人の恐ろしさに戸を閉じて集まれる所に、イエズス來りて、その中に立ちのたまひけるは、汝ら、安かれ、と。かくのたまひて、²⁰手と脇^{わき}とを彼らに示し給いければ、弟子たち主を見て喜べり。²¹イエズスまたのたまひけるは、汝ら安かれ、父のわれを遣わし給いしどとく、われも汝らを遣わすなり、と。

22 罪を許すの權を賜う（¹⁸_{マテオ}） 22 かくのたまいて息吹きかけてのたまいけるは、聖靈を受けよ、
 23 汝らたれの罪を許さんも、その罪許されん、たれの罪を留めんもその罪留められたるなりと。
 トマの不信 24 しかるに十二人の一人にしてジジモと呼ばれるトマは、イエズスの來り給いし
 時、彼らとともにおらざりしかば、²⁵他の弟子たち、これに向かい、われらは主を見たり、と言
 いしに、彼言ひけるは、われは、その手に釘のあとを見て、その釘の所にわが指を入れ、その脇^{わき}
 にわが手に入るるにあらずば信せじ、と。

トマにも現われ給う 26 八日ののち、弟子たちまた内にありてトマもともにおりしが、戸は閉
 じたるにイエズス來りて真中^{まんなか}に立ち給い、汝ら安かれ、とのたまいて、²⁷やがてトマにのたまい
 けるは、汝指をここに入れてわが手を見よ、手をのべてわが脇^{わき}に入れよ、不信者とならずして信
 者となれ、と。²⁸トマ答えて、わが主よ、わが神よ、と言いしかば、²⁹イエズスこれにのたまい
 けるは、トマ汝はわれを見しによりて信じたるが、見ずして信せし人々こそ幸いなれ、と。

福音書の主意 30 このほかにも、なおあまたの印を、イエズス弟子たちの眼前^{がんぜん}になし給いしか
 ど、本書には書き載せず。31 これらのことの書き載せられたるは、汝らが、イエズスの神の御子
 キリストたることを信せんため、信じてみ名によりて生命を得んためなり。

①マルコ16・11、ルカ24・11 ②ラビよりも、うやうやしき言葉。 ③原文には、われにつくなれ。私を留めよう
 とするなの意。④ご復活後の日曜日。

湖辺に現われ給う 1 そののちイエズスまたチペリアデの湖辺にて、おのれを弟子
 たちに表わし給いしが、その表わし給いし次第は次のとし。2 シモン・ペトロとジジモと呼ば

るるトマと、ガリレアのカナ生まれなるナタナエルとゼベデオの子らと、なおほかに二人の弟子ともにありけるに、³シモン・ペトロ、われ漁りょうに行く、と言いしかば、彼ら、われらもともに行く、と書いて、みな出で行きて舟に乗りしに、その夜は何をも得ざりき。⁴さて夜明けに至りてイエズス浜に立ち給えり、さりながら弟子たちは、そのイエズスなることを認めざれば、⁵イエズス彼らに向かい、子どもよ、魚さかなあるか、とのたまいしに、彼ら、なし、と答えたり。⁶イエズス、網を舟の右におろせ、さらば獲物えものあらん、とのたまいければ、彼らおろしたるに、魚うおおびただしくして網を引くことあたわざれば、⁷イエズスの愛し給えるかの弟子、ペトロに向かいて、主なり、と言いしを、シモン・ペトロ、主なりと聞くや、裸はだか²なりければ上着はだか³をまといて湖に飛び入り、⁸他の弟子たちは魚うおの満てる網を引きつつ舟にて来れり、陸はがを去ること遠からず、約五十間ばかりなりければなり。⁹陸はがに上がりて見れば、すでに炭火すみびありて、その上に一つの魚うおののせられたるあり、またパンありき。¹⁰イエズス彼らに向かい、汝ならが今取りたる魚うおを持ち來たれ、とのたまいしかば、¹¹シモン・ペトロ乗りて、大いなる魚うお百五十三尾まで満ち満ちたる網を、陸はがに引き來りしが、かくまで、おびただしかりしかども網は裂けざりき。¹²イエズス彼らに、來りて食せよ、とのたまいしに、弟子たち、その主なることを知りて、汝なはたれぞ、とあえて問う者一人もなかりしが、¹³イエズス近づき給い、パンを取りて彼らに与え、魚うおをもまた同じようにし給えり。¹⁴イエズスが死者のうちより復活して、その弟子たちに現われ給いしは、これにてすでに三たび目なりき。

15 ペトロ、最上牧者に立てらる

(本書1・42、
ルカテオ3216)

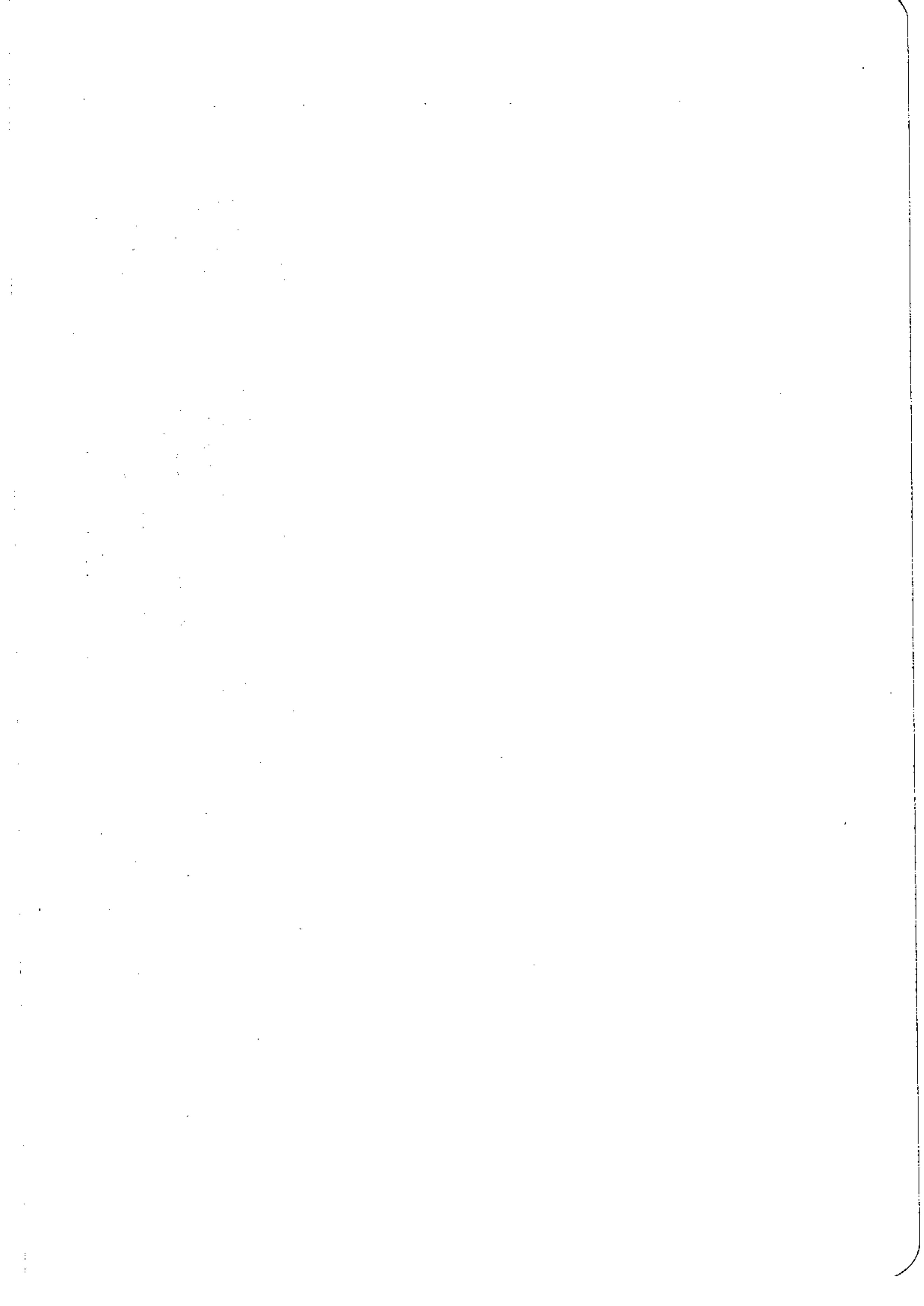
15 さて彼ら食したるに、イエズス、シ

モン・ペトロにのたまひけるは、ヨハネの「子」シモン、汝は、この人々にまさりてわれを愛するか、と。彼、主よ、しかり、わが汝を愛するは汝の知り給うところなり、と言いしかば、イエズス、わが小羊を牧せよ、とのたまえり。¹⁶ また再び、ヨハネの「子」シモン、汝はわれを愛するか、とのたまひしに、彼、主よ、しかり、わが汝を愛するは汝の知り給うところなり、と言いしかば、¹⁷ イエズス、わが小羊を牧せよ、とのたまえり。¹⁷ 三たび、これに向かいて、ヨハネの「子」シモン、汝はわれを愛するか、とのたまひしかば、ペトロは、われを愛するかと三たびまで言われたるを憂いしが、主よ、万事を知り給えり、わが汝を愛するは汝の知り給うところなり、と言いしに、イエズスこれにのたまひけるは、わが羊を牧せよ。

¹⁸ ペトロとヨハネとに関する予言 ¹⁸ 誠に誠に汝に告ぐ、汝、若かりし時、自ら^{おも}帶して好む所を歩みいたりしが、老いたらんのちは手をのべん、しかして他の者、汝に^{おも}帶して、その好まさる所に導かん、と。¹⁹ これペトロが、いかなる死を遂げて神に光榮あらしむべきかを示してのたまひしなり。さて、これをのたまひはてて、われに従え、と。ペトロにのたまひしが、²⁰ ペトロ振り返りて、イエズスの愛しい給いしかの弟子、すなわち晩さん^{おひ}の時、イエズスの御胸に横たわりて、²¹ 主よ汝を渡す者はたれなるぞ、と言いし弟子の従えるを見たり。²¹ ペトロこれを見てイエズスに向かい、主よ、彼はいかに、と言ひしに、²² イエズス、ペトロにのたまひけるは、わが来るまで彼の留まらんことを命ずとも、汝において何かあらん、汝はわれに従え、と。²³ されば、かの弟子死せずとの説、兄弟たちのうちに伝わりしが、彼死せず、とイエズスのペトロにのたまひしにはあらず、ただ、わが来るまで彼の留まらんことを命ずとも、汝において何かあらん、とのたまひしのみ。

本福音書の末文^{まつどん} 24これらのことにつきて証明し、これらのこととを書きし人は、すなわち、かの弟子にして、われらは、その証明の真実なることを知る。25されどイエズスのなし給いこと、なおこのほかにもおびただしく、もしこれを、いちいち書きしるさば、われ思うに、書きしるすべき書籍は世界すらも載せつべすことあたわざるべし。

① ラテン訳では食物。② 肌着のまま。③ ラテン訳では下着。④ 原文には二百肘（ちゅう）とあって、一肘は、およそ五一センチメートルに当たる。⑤ 原文には朝飯を食せよ。⑥ ラテン訳では食する者。



使徒行録序言

本書の名 本書は古代から使徒行と称して、その名はいわゆる十二使徒の伝記のようであるが、実はそうではなくて、わずかに十二使徒の名を初めにかかげただけである。なお文中に使徒たち一般の上にわたることも往々にしてないこともないが、名ざしてそのことを載せたのは聖パウロと他の五人のことだけで、しかもほとんど聖ペトロと聖パウロとの事跡を記したものである。

記者 聖ルカで発端を見ると本書はこれより先にしたためた聖ルカ福音書の付録であるかのように、材料はあるいは使徒たち、あるいは実見者から聞いたところ、または自ら見聞したところをとつた。

書いた場所および年代 所については何の証跡もないけれども、年代は確かにエルザレムの滅亡以前、すなわち紀元七〇年以前であって、聖パウロの死去に先立つものであろう。そうでないとそのことをも記すはずだからである。本書の終わりに、聖パウロのロマにおける二年間の入獄に関する記事がいくらかあるのを見れば、本書が成立したのはそのころ、すなわちおよそ六三年のころとなるだろう。

目的 読者の信仰を固めようとするところにあるらしい。すでにキリスト一代の伝記を述べた上、更にキリスト教伝播の次第を知らせるのは最も人の信仰を強むべきものだからである。

区分 本書は二編に分けられる。第一編は主に聖ペトロの事跡をかかげ、更にこれを分ければ、第一にエルザレムにおける聖会の成立（一章一節）と八章三節）、第二に異教人中の布教の準備発端（八章四節）と十二章二十五節）を述べる。第二編はもっぱら聖パウロの伝道および入獄の次第をかかげ、その第一は聖パウロ第一回伝道旅行およびエルザレムの会議（十三章一節）と十五章三十五節）、第二は聖パウロ第二回の伝道旅行（十五章三十六節）と十八章一二二節）、第三は聖パウロ第三回の伝道旅行（十八章二十三節）と二十一章十六節）、第四はカイザリアおよびロマにおける聖パウロの入獄（二十一章十七節）と二十八章三十一節）の記事である。

本書の効益 本書の記事は、紀元三〇年から六三年までのおよそ三十年間にわたるキリスト教会における最も大切な事実で、このころの実情をつまびらかにしたものは、本書をおいて他にはなく、ただ聖パウロの書簡にいくらかこれに関する記事があるけれど、本書のように詳密なものはない、教会史研究上における本書の価値はきわめて大である。これを歴史的見地から見ても本書にかかげた事実は最も詳しくて、これを他書に伝えたところ、また現に残っているところの古跡に照らして最も信用すべきものと認められる。